

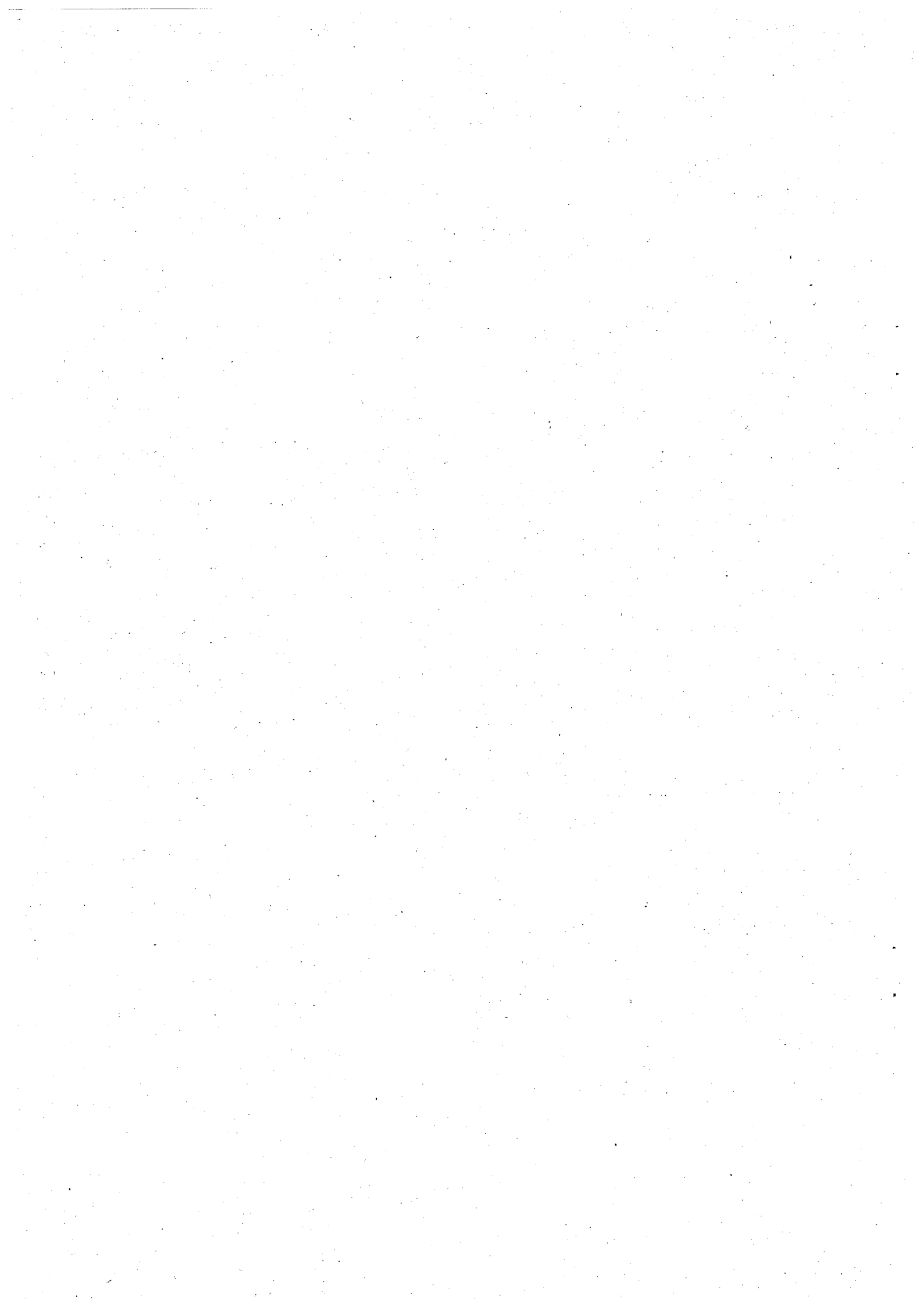
# 令和3年度 地域づくり活動応援事業 事例集

## 一般枠、特別枠



こころ豊かな美しい西播磨推進会議

兵庫県西播磨県民局



## 目

## 次

事業名	実施団体	
<b>一般枠</b>		
1 千種川源流探訪ハイキング	NPO法人千種川源流を守る会	・・・ 1 頁
2 医療と介護について「話せて学べて仲良く助け合う」場づくり2021	はまなすの会	・・・ 3 頁
3 清流千種川流域の自然と景観を楽しむ	上郡校区まちづくり推進委員会	・・・ 6 頁
4 世代間の交流ふれあい事業	県民交流広場 やさしさを育むまち小宅 (コミセン小宅)	・・・ 11 頁
5 男女共同参画社会促進事業	しそウイメンズネット “mimosa”	・・・ 13 頁
6 【Next×まち育事業】 『ひとこま』 ～ひとこまから始まるつながり～	しんぐうNext	・・・ 16 頁
7 ～赤穂義士のふるさと～ 赤穂お城ウェディング	加里屋城下町ウェディング実行委員会	・・・ 20 頁
8 佐用まちづくり塾	佐用まちづくり塾	・・・ 23 頁
9 避難所ビジュアル運営マニュアル作成	もやい宿	・・・ 25 頁
10 アートでエールを2021	3Mプロジェクト協議会	・・・ 28 頁
11 鉄道のない町穴栗市を鉄道模型で地域活性化	特定非営利活動法人しそウ夢鉄道	・・・ 31 頁
12 利神城にジャコウアゲハが舞う日まで	NPO法人ほっとネット373	・・・ 36 頁
13 うね地区魅力発信事業	うね地区まちおこし隊	・・・ 39 頁
14 上高谷 くつろぎの縁側	上高谷 (かみたかや) 喜楽会	・・・ 41 頁
15 ヒガンバナで新宮を飾ろうプロジェクト	リタリス令和	・・・ 44 頁
16 「塩・塩廻船のまち播州赤穂」 深掘ジオ 観光プログラム開発	播州赤穂の塩・ジオ研究会	・・・ 46 頁
<b>特別枠</b> (子育て応援)		
17 みんなで作ろう！ あいおいふるさとカルタ	一般社団法人相生青年会議所	・・・ 49 頁
18 みんなが主役！ 子どものための巨大らがき大会	子どもの遊び場を考える会赤とんぼ	・・・ 52 頁
19 赤穂海浜公園魅力アップ作戦 ～子育て支援事業の開催と情報誌発行	赤穂市地域活動連絡協議会	・・・ 56 頁
20 利神ふれあいキャンプ (スポーツ交流)	利神ふれあいキャンプ実行委員会	・・・ 58 頁
21 西播磨をNEWスポーツ(オリンピック新競技)で盛り上げよう計画	播州ストリートダンス協会	・・・ 60 頁
22 あこうペアトレSPORTSフェス (山城魅力向上)	赤穂ペアトレ研究会	・・・ 63 頁
23 「有年山城」もあるよ！	東有年歴史探訪の会	・・・ 65 頁
24 佐用山城ガイドスキルアップ事業	佐用山城ガイド協会	・・・ 67 頁

# 特定非営利活動法人千種川源流を守る会

## 千種川源流探訪ハイキング

所在：宍粟市千種町

代表：阿曾 茂夫

地域：県下全域

目的	<p>兵庫、岡山、鳥取県の県境に位置する千種川の源流を訪ね、その自然の魅力と歴史・文化を発見するための催しを、ルートに落葉樹の植樹を行い、水資源の保全への取組に取組みとすると共に、今は山中に埋もれ、秘境と言われるたたら製鉄の遺構がある奥天見屋（おくてんごや）を訪ね、その魅力を紹介し「全国名水百選千種川への関心をより多くの方に抱いていただくことを目的としている。</p>				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千種川源流ハイキングルートを整備、修繕した。</li> <li>・市の事業の協力を得て、ユンボによる植樹エリア整備、作業道（遊歩道）整備、県下のボランティア（35名）による苗木（ドウダンツツジ等）20本を植樹した。</li> <li>・千種川源流ハイキングルート整備については昨年作業を実施しておらず、倒木等を伐採機械を使った専門作業と、会員による草刈り作業を行い、延べ12人の参加となった。</li> <li>・情報誌の発行について「千種川SDGs」をテーマとし、山と海はつながっていることを紹介し、流域の多くの皆さんの協力を得ることが出来た。</li> </ul>				
事業の効果	<p>本年度の特色と取組については、毎年、11月3日に開催されている「ちくさもみじ祭り」との連携を図る予定であったが、コロナ過でのイベント等の中止の流れを受け、事業内容を、コロナの影響を受けない事業を優先する取組とした。</p> <p>幸いにも、宍粟市の協力により遊歩道整備に取組め、今後、このルートが森の役割を紹介できるハイキングルート(学びの森)となり、次年度以降の取組に活かしたいと考えている。</p> <p>また、これらの取組を情報発信するうえで、「流域情報誌千種川.9」を発行し、本事業の取組を紹介できたこと、さらに、本事業が千種川最上流であり、千種川の機能、役割を紹介するうえで適地であり、今後の取組に説得力が得られ、今後においても継続した取組に結びつく、事業年度となったと感じている。</p>				
事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	2021. 8. 20	ちくさええとこセンター	総会及び事業計画打合せ	8人	2人
	2021. 8. 23	宍粟市役所	事業打合せ、森林環境課(宍粟市)	2人	2人
	2021. 9. 23	編集会議	千種川.9	5人	2人
	2021. 9. 30	ちくさええとこセンター	業者行程会議	3人	2人
	2021. 10. 29	ちくさええとこセンター	打合せ	4人	2人
2021. 11. 6	現地	草刈り	7人	3人	

	2021. 11. 13	現地	植樹作業	38人	4人
	2021. 12. 2		千種川校正依頼	10人	10人
	2021. 12. 28		千種川印刷完了、配布依頼	10人	10人

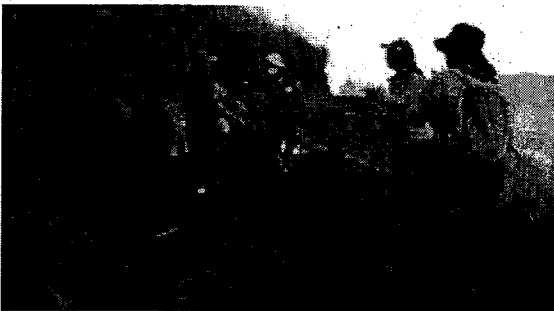
2021. 11. 6  
(草刈り・遊歩道整備)



2021. 11. 6  
(草刈り・遊歩道整備)



植樹作業 2021. 11. 13



協働の相手方	宍粟市
今後の展望	<p>宍粟市の支援もあり、本年度の事業効果は大きく、次年度以降の取組と成果に期待を持っている。本事業の予算枠に限りがあり、当会計からの持ち出しが増加するなど、継続面では財源面での課題、不安はあるものの、①流域の方々との交流が生まれたこと、②千種の中高生に地域の魅力を授業で伝えたこと、更に③西播磨の高齢者大学で流域の皆さんに取組を発表できたこと④地元で小水力発電のプロジェクトへの協力依頼があったことなど、⑤時代背景が循環社会・脱炭素を求めていることなど、継続して地域のニーズに応じていきたいと考えている。</p>

# はまなすの会

## 医療と介護について「話せて学べて仲良く助け合う」場づくり 2021

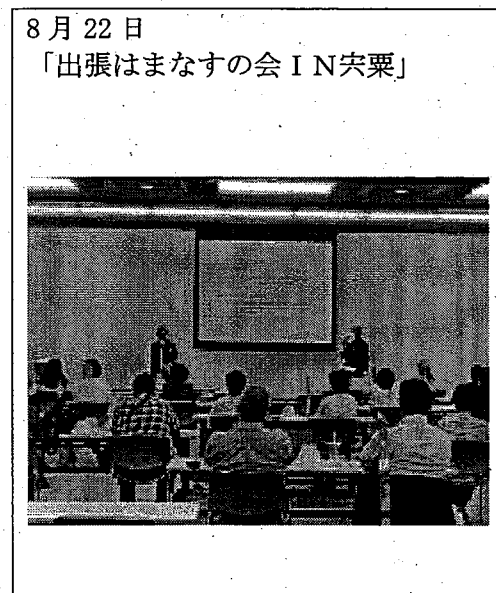
所在：太子町

代表：太田 直美

地域：兵庫県全域

目的	<p>医療と介護の制度が目まぐるしく変わって行く中、一般住民にはその情報が伝わりにくく、それが必要となった時に多くの方々が困惑されている状況がある。はまなすの会では、それらの情報提供、相談等を受けることで適切な医療と介護を受けることが出来るように支援を行う。</p> <p>又、一生のうちに2人のうち1人ががんに罹患するといわれている。がん治療の進歩と共に生存率も延伸し、がんと共に生きるサバイバーも増加しておりその方々への支援の必要性もいわれており、はまなすの会はその支援を行う。</p>				
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療と介護についての講演会開催・がんサロン（毎月1回） *本年度新事業「出張はまなすの会IN宍粟」</li> <li>2. 「はまなすの家」開催準備 *2022年4月オープン予定</li> <li>3. 「ケア帽子（病気や治療の副作用で脱毛された方に使用）」作成、無料配布</li> </ol>				
事業の効果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎月の講演会とがんサロンでは、コロナ禍ではあったが、その都度関心のある方の参加があり、具体的な相談を受けることもあり。「勉強になった。」「聞いて良かった」との感想あり。8月の講演会・がんサロンでは、宍粟市の、ボランティア活動、がんサンをされている方とも繋がりができ、今後の活動協力等も行えることとなる。</li> <li>2. はまなすの家」併設の畑作りを開始したことで、年代を超えた交流の場となり、会員の繋がりが深まり開設意欲アップとなった。</li> <li>3. ケア帽子無料配布について神戸新聞社掲載2回、たつの市広報、太子町社会福祉協議会広報に掲載いただき、宝塚市、丹波市等兵庫県各地の方々からケア帽子希望があり、個別連絡者約50名に200枚、姫路赤十字病院、姫路聖マリア病院にも約100枚提供。姫路赤十字病院より、作成グループの方々（たつの市御津町布の会）へ感謝状が贈られた。</li> </ol> <p>また、広報を見られた方が、帽子の作成に加わりたいとの連絡もあり。賢明女子学院生徒会ボランティア活動でタオル、ガーゼ等帽子作成材料集めを行っていただくこととなり、「がんになる前に知っておくこと」のDVDも見ていただき、がんについて理解も深めてもらうきっかけとなった。</p>				
事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
事	4月11日	立岡公民館	講演会：「専門医が語る肝臓のお話」 奥新クリニック 奥新浩明氏	26人	5人
業	5月3日	はまなすの家	畑耕作、草引き等	25人	7人
経	5月6日	立岡公民館	講演会：「新しいがん検診の方法について」 上田 正巳	15人	5人
過	6月6日	はまなすの家	畑作業 野菜苗植え	20人	5人

6月27日	立岡公民館	講演会：「口内炎について」 歯科・口腔外科 足立 了平氏	18人	5人
7月25日	立岡公民館	講演会：「がんと介護保険」 清水 敦子氏	17人	5人
8月22日	宍粟防災センター	講演会・対談：「がんってなに」 マリアヴィラ 田村 亮氏 パーソナリティ 谷五郎氏	39人	10人
9月19日	立岡公民館	講演会：「顎関節症に対するアロマ を用いた理学療法」 歯科・口腔外科 大杉 真央氏	17人	4人
10月17日	立岡公民館	講演会：「高齢者の血液がん」 姫路赤十字病院 久保西 四郎氏	19人	5人
10月3日	はまなすの家	野菜収穫・冬野菜苗植え	27人	7人
11月14日	立岡公民館	講演会：「高齢者の脱水について」 大塚製薬工場 川本 安紀子 ゴダイ薬局 下野 康成	14人	4人
12月19日	立岡公民館	講演会：「がんを取り巻く環境にア プローチする」姫路中央病院クリニ ック 中村成夫氏	13人	5人
R4 1月16日	立岡公民館	講演会：「眼に副作用を生じやすい 抗 腫瘍薬」 しみず眼科 清水 敏 成氏	10人	5人



ケア帽子 チラシ

ケア帽子は、がん治療や病後などによる脱毛、  
頭皮が弱い方に向けた着に優しい帽子です。

【ケア帽子の全額が寄付せ/材料は無料】  
TEL 090-5486-8881(大杉君)  
FAX 079-276-2916  
〒671-1351 兵庫県淡路市太子町米田 2-7-7

10月3日

「はまなすの家」畑収穫



<p>協働の相手方</p>	<p>布の会 賢明女子学院 特定非営利活動法人さつき</p>
<p>今後の展望</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療と介護についての講演会・がんサロンは毎月1回開催予定 「出張はまなすの家 IN 佐用」予定</li> <li>2. 自分の力を取り戻し、新たな自分と生き方を見つける憩いの場所 「はまなすの家」4月オープン予定（揖保郡太子町米田 172-1）</li> <li>3. ケア帽子作成と無料配布継続 賢明女子学院ボランティア活動協力継続</li> </ol>



# 上郡校区まちづくり推進委員会

## 清流千種川流域の自然と景観を楽しむ

所在：赤穂郡上郡町

代表：山本 剛

地域：西播磨地域全域

目的	上郡町内を流れる地域の財産である清流千種川を活用し、かつて栄えた中心市街地を拠点として地域の魅力を再発見する活動を展開し、地域活性化の一助とする																									
内容	<p>町内を貫流する清流千種川を含む自然豊かな上郡町を堪能するイベント「千種川リバーアスロン」今年度で第4回目を迎える。本年度は</p> <p>① 上郡アルプス登山、10月30日31日の2日間で全コース32kmを制覇する企画とした</p> <p>② サイクリング A ベテランコースは町内の東西に位置する2つのダム（金出地ダム、安室ダム）を周回する初めての本格的なサイクリングコースを設定した</p> <p>③ ウォーキングコースは昨年度好評であった上郡町観光ガイドの皆さんの協力を得て、コース沿道の町内の名所、旧跡を解説してもらう企画とした</p> <p>④ 戦国時代の情報手段であった狼煙を白旗城山頂で挙げ登山者の皆さんが（31日）苔縄城より確認する試みを実施した</p> <p>新型コロナウイルスの影響で、多くの皆さんが我慢を強いられる毎日が続き、多くのイベントが中止される状況であったが、集合場所等では、マスクの着用、手洗い励行、体温検査等の対策を実施、ソーシャルディスタンスが保ちやすい野外イベントとして、参加の皆さんに楽しんで頂けるイベントが開催出来たと思っている</p> <p><b>参加者実績</b></p> <table border="0"> <tr> <td>上郡アルプス登山 A コース</td> <td>30日</td> <td>18km</td> <td>64名</td> <td>(町外 48名)</td> </tr> <tr> <td>上郡アルプス登山 B コース</td> <td>31日</td> <td>14km</td> <td>80名</td> <td>(町外 66名)</td> </tr> <tr> <td>サイクリング A ベテランコース</td> <td>31日</td> <td>55km</td> <td>82名</td> <td>(町外 72名)</td> </tr> <tr> <td>サイクリング B 初級コース</td> <td>31日</td> <td>13km</td> <td>20名</td> <td>(町外 12名)</td> </tr> <tr> <td>ウォーキングコース</td> <td>31日</td> <td>10km</td> <td>73名</td> <td>(町外 53名)</td> </tr> </table> <p><b>参加者総数</b> 319名 (町外251名 79%) 協力スタッフ、ボランティア 55名</p>	上郡アルプス登山 A コース	30日	18km	64名	(町外 48名)	上郡アルプス登山 B コース	31日	14km	80名	(町外 66名)	サイクリング A ベテランコース	31日	55km	82名	(町外 72名)	サイクリング B 初級コース	31日	13km	20名	(町外 12名)	ウォーキングコース	31日	10km	73名	(町外 53名)
上郡アルプス登山 A コース	30日	18km	64名	(町外 48名)																						
上郡アルプス登山 B コース	31日	14km	80名	(町外 66名)																						
サイクリング A ベテランコース	31日	55km	82名	(町外 72名)																						
サイクリング B 初級コース	31日	13km	20名	(町外 12名)																						
ウォーキングコース	31日	10km	73名	(町外 53名)																						
事業の効果	<p>○継続は力なり。回を重ねるに従い年々参加者が増え、上郡町また西播磨地域の多くの方々に認知されるイベントに成長してきたと思われる</p> <p>○30日の登山コースに西播磨有数の堀切を有する大聖寺山城へ向かうルートを整備し登山コースに組み込んだ。今後白旗城登山ルートに次ぐ上郡町をアピールする登山ルートとすべく上郡町とも連携したいと思っている</p> <p>*今回の大聖寺山城ルート整備に伴い、上郡アルプス登山ガイド改訂版を作成した</p> <p>○戦国時代の情報手段である狼煙を白旗城山頂で挙げて、登山者が苔縄城から確認を行う。この企画については白旗城が国指定の遺跡であったので、上郡町および兵庫県文化財担当課の皆さんに大変お世話になった、また実施作業については佐用山城ガイドの皆さんの協力を得て実現が可能となった、引き続き佐用山城ガイドの皆さんとの連携を継続して行く予定である</p> <p>○事故等救急事態に対処する為、上郡消防署とイベント前に情報交換を行っている</p> <p>今年度の機会を利用して上郡消防署では、上郡アルプス登山ルート上で救急対応が必要な事態が発生した場合を想定し、現地へ短時間で到達するための詳細マニュアルを作成された</p> <p>これにより上郡アルプス登山ルートは救急時により安心できる1ランク上の登山ルートになった</p>																									

<p>○2ダム（金出地ダム、安室ダム）ライド、ベテランサイクリストにとっては魅力的なコースであり、上郡町をアピールする有効な資源であることが確認できた</p> <p>○参加者の皆さんには、コースの各休憩所で（ベーカリーコネルのパン、ひがし蔵のスウィーツ、涼祥の焼き鳥、平田製麺所のモロヘイヤうどん）を味わってもらった また、岩木休憩所において鞍居ふるさと村づくり協議会のモロヘイヤ商品等の販売、最終地点の上郡役場前での上郡観光案内所による地元製品の販売等、地元製品のアピールに貢献出来たと思われる</p> <p>○登山については、2日間に渡って開催したので10月30日の上郡ピュアランド山の里満室、タクシー2社の全車両利用、上郡駅前のコンビニにおにぎりを大量に発注等、地域の企業の為にも貢献できたと思われる</p> <p>○スタッフの人数に限られる状況の中で、 スタッフ、ボランティアの皆さんの心を込めた対応は、参加者の皆さんのハートに十分に届いたとことと思われる</p>					
		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	2021/5/9	佐用町櫛田	狼煙テスト		8名
	2021/5/27	菊森さんの家	作戦会議		8名
	2021/6/8	上郡アルプス	大聖寺山城登山コース確認		3名
	2021/6/21		地元自治会協力要請		1名
	同日	大澤設計事務所	審査会プレゼン予行演習		3名
	2021/6/25	上郡役場	狼煙試行報告（三木教育長）		1名
事	2021/6/28	菊森さんの家	上郡民報取材		3名
業	2021/6/29	菊森さんの家	作戦会議		12名
経	2021/7/20		上郡民報（7月20日号） 千種川リバーアスロン2021 登山特集記事掲載		
過	2021/7/21		文化庁へ狼煙許可申請書提出		
	2021/7/27	菊森さんの家	上郡民報取材		4名
	2021/7/28	鞍居ふるさと村協議会	鞍居ふるさと村づくり協議会さんと協働について打合せ		3名
	2021/7/29	菊森さんの家	作戦会議		5名
	2021/8/3	菊森さんの家	上郡町全戸配布チラシの仕分け、役場へ納品		3名
	2021/8/5	光都土木事務所	光都土木事務所で2ダムライドについて情報交換		2名

	同日	上郡役場	上郡町観光ガイド Gr と打合せ		8名
	2021/8/16	西播磨県民局	渡瀬県民局長に協力要請		3名
	2021/8/20		上郡民報 (8月20日号) 千種川リバーアスロン2021 サイクリング特集記事掲載		
	2021/8/23	上郡役場	梅田上郡町長に協力要請		4名
	2021/8/26	菊森さんの家	上郡民報取材		3名
	2021/9/2	菊森さんの家	作戦会議		8名
	2021/9/6		神戸新聞西播版 千種川リバーアスロン2021 記事掲載		
	2021/9/20		上郡民報 (9月20日号) 千種川リバーアスロン2021 ウォーキング特集記事掲載		
	2021/9/28		11:10~ラジオ関西 谷五郎の笑って暮らそう 大澤さん出演		1名
	2021/10/1	菊森さんの家	作戦会議		7名
	2021/10/4	上郡消防署	イベントの報告&事故対応の協 議		2名
	2021/10/11	菊森さんの家	作戦会議 (サイクリング Gr)		4名
	2021/10/12	菊森さんの家	案内書準備&発送		2名
	2021/10/19	菊森さんの家	軽食等おもてなし担当打ち合わせ		7名
	2021/10/22		ウォーキングコース草刈り		4名
	2021/10/23		ウォーキングコース清掃 登山コースルート整備		2名 2名
	2021/10/24		ウォーキングコース清掃		2名
	2021/10/25	菊森さんの家	作戦会議		9名
	2021/10/28	白旗城山頂	狼煙機材運搬		3名
	2021/10/29		サイクリングコース矢印設置		4名

	2021/10/30		千種川リバーアスロン 2021 登山A	64名	5名
	同日	岩木休憩所	会場設営		8名
	2021/10/31		千種川リバーアスロン 2021 サイクリングA サイクリングB 登山B ウォーキング	82名 20名 80名 73名	55名
	2021/11/13	白旗城山頂	狼煙機材撤去		3名
	2021/11/15		「上郡町議会便り」発行 表紙 千種川リバーアスロン 2021 の 写真が掲載される		
	2021/11/18	菊森さんの家	上郡アルプス登山ガイド 改訂版の検討		2名
	2021/11/20		上郡民報 (11月20日号) 千種川リバーアスロン 2021 の 記事が掲載される		
	2021/11/30		上郡アルプス登山ガイド 改訂版 2000部出来上がる		
	2021/11/29 ~12/3		上郡CATVで 千種川リバーアスロン 2021 の様子が放送される		
	2021/12/3		上郡CATV内容 Youtube に 投稿し Webpage で公開する		
	2021/12/23	菊森さんの家	反省会		15名

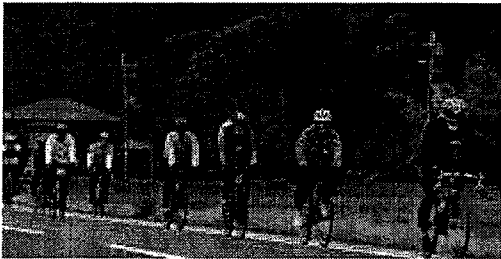
協働の相手方	<p>下記の皆さんのご協力を得てイベントが実現できました、感謝感謝です 上郡アルプス実行委員会、NPOほっとネット373、里山ICT能開学校、 上郡サイクリングクラブ、赤穂サイクリングクラブ、(公財)兵庫健康財団、 鞍居地区ふるさと村づくり協議会、半田モーターサイクル、ギャラリーひがし蔵 平田製麺所、ベーカリーコネル、涼祥、木村写真館、上郡町観光ガイド(SACLA)、 上郡町社会福祉協議会、すずらんの会、佐用山城ガイド、チーム水野、 すこやか教室(菊森さんの家)神姫観光(株)</p>
今後の展望	<p>○上郡アルプス登山ルートの中に存在する山城跡の中で、大聖寺山城跡については 西播磨有数の堀切が存在し、上郡町内の白旗城跡に継ぐ山城登山ルートとして大 いにアピールすべきである その為の登山ルートの整備等、上郡町担当部署とも協議を重ね前進させたい ○サイクリストを千種川沿線に更に呼び込むために サイクリング部門の組織の強化と、上流の佐用町、下流の赤穂市のサイクリング のグループとの連携を模索したいと考える</p>



作戦会議 2021/10/25



登山 A コース 10/30



サイクリング 10/31



ウォーキング 10/31

# 県民交流広場 やさしさを育むまち小宅（コミセン小宅）

## 世代間の交流ふれあい事業

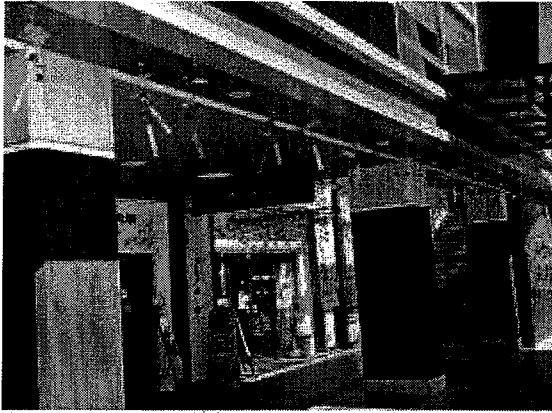
所在：たつの市  
本竜野駅観光交流施設内  
代表：田口 隆弘

地域：たつの市小宅小学校区内

目的	<p>小宅地区は、人口約1万5千人・6千世帯、小学校の児童数も約1千人で、たつの市の中心地となっています。</p> <p>マンション・アパート・戸建住宅の建設に伴い人口が増加する一方で地域の世話人の高齢化・一人暮らし老人の増加、また価値観が多様化する中、地域の連帯感が薄れ、コミュニティ活動への参加減少や近助・共助の機能が低下しています。</p> <p>「やさしさを育むまち小宅」では、地域の繋がる力や共に支え合って生活し活動することへの意識づくりを進め、コミセン小宅を拠点とした情報の発信・活動で地域が活性化し小宅地域のよりよい発展に繋がるよう努めています。</p>				
内容	<p>コミセン活動の一環として、JR姫新線の利用促進と地域の賑わいづくりのため、JR姫新線本竜野駅前「風鈴飾り」「七夕飾り」「イルミネーション飾り」を行っています。</p> <p>飾りに併せてイベントを行う予定でしたが、コロナの影響もあり中止となりました。</p> <p>●6月には、駅構内と駅前通りに約150個の風鈴を飾り、7月の七夕飾りは、25本の竹笹に児童・園児約1,500人の短冊を駅構内に飾りました。</p> <p>●11月末からは、駅西広場を中心にイルミネーション飾りを行い、年末の慌ただしい中皆さんに安らぎと憩いを感じて頂きました。</p> <p>●併せて、駅舎の壁面に小宅地区内4園の園児456点の作品や龍野北高校総合デザイン科の協力を得て生徒118名の作品の中にLED電球を入れて灯し、イルミネーションとして展示しました。</p>				
事業の効果	<p>小宅地区の中心に位置し、たつの市の玄関口でもある「JR姫新線本竜野駅」において、四季を感じる飾りを行うことで、JRの利用者や地域の皆様が心安らぐひと時を過ごして頂けたと思います。</p> <p>また、飾り付けなどで、地域内の小学校・こども園やPTAを始め各種団体が協力して事業を推進することで、地域や世代間の連帯感を醸成するとともに、JR本竜野駅の賑わいづくりを通して姫新線の利用促進を図っています。</p>				
事業経過	日時	場所	内容	参加者数	スタッフ数
	R 3. 5. 18	地域内4こども園・小宅小学校	七夕飾りの短冊作成依頼		
	R 3. 6. 4	コミセン	第1回 企画運営部会		11名
	R 3. 6. 26	本竜野駅構内	風鈴飾り	27名	
	R 3. 7. 3	本竜野駅構内	七夕飾り	71名	
	R 3. 8. 21		風鈴飾り撤去		23名
	R 3.10. 12	こども園・龍野北高校	作品作成依頼	延べ87名	10名

R	3.11.13		第2回 企画運営部会		
R	3.11.27		イルミネーション飾り		
R	4.1.8		イルミネーション飾りの撤去		24名

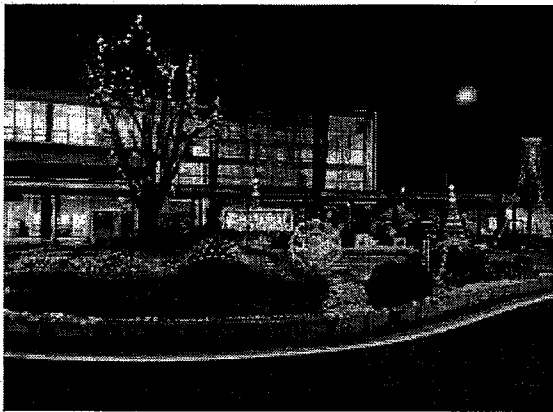
【風鈴飾り】令和3年6月26日 飾り付け



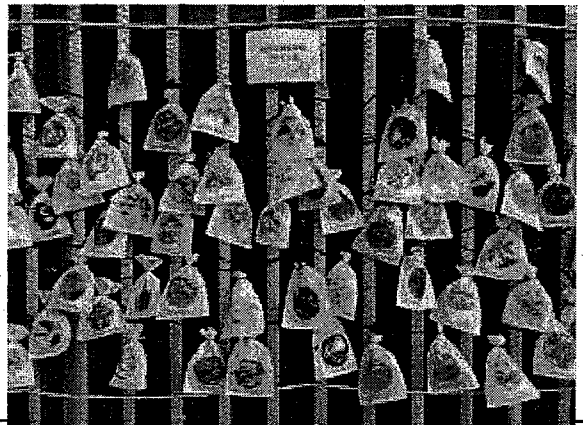
【七夕飾り】令和3年7月3日 飾り付け



【イルミネーション】令和3年11月27日飾り付け



【作品展】令和3年11月27日～ 展示



協働の相手方	<p>作品の作成協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 小宅北こども園、小宅南こども園、旭こども園、たんぽぽ保育園、小宅小学校</li> <li>龍野北高校総合デザイン科</li> </ul> <p>飾付 — 自治会・老人クラブ・PTA・健やかな子供を育てる会・花づくりグループ他</p> <p>イルミネーション点灯式 — 地域内の子供会</p>
今後の展望	<p>事業は今後も継続していく予定で、経費はできうる限り抑えて実施しました。</p> <p>イルミネーションは、取扱いによって壊れやすく、毎年修繕が必要となります。</p> <p>また素人の集まりによる飾付となり、高所の樹木への飾付が難しいところがあります。</p> <p>全体的な見栄えについても、今後の検討課題となっています。</p>

ミモザ  
しろうウィメンズネット “mimosa”

**男女共同参画社会促進事業**

所在：宍粟市山崎町

代表：三渡 眞由美

地域：宍粟市内全域

目 的	<p>性別役割分担意識の撤廃に向け、アンコンシャス・バイアスへの気づきを促す機会を提供し、地域の方々とともに意識の醸成を図ること、また、地域における女性の意志決定の場への参画の必要性から、女性のエンパワメントを図ることを目的とする。</p>
内 容	<p>①市民のみんなが安心して暮らせるために「親子で学ぼう防災」と題した防災講座を、宍粟防災センターで開催。合わせて、リユース品のミニ譲渡会をエレベーターホールにて実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に参加者の住所地ハートマップを用意し、自宅及び学校での災害発生を想定し、危険な場所や避難場所、家族間での決め事について話し合う</li> <li>・新聞紙でできるスリッパ作りを実践し、破片等から身を守るためにできることを学ぶ</li> <li>・簡単にできる防災食の体験（じゃがりこを使ってのポテトサラダづくり）</li> <li>・各家庭の防災グッズや車の装備など、「わたしの防災」として掲示</li> <li>・男女共同参画の視点からみる防災パネルの展示</li> <li>・「譲ります/もらいます」カードとマニュアルを作成し、譲渡品を展示</li> </ul> <p>②絵本と書籍から学ぶ展示会「わたしもあなたも だいじ だいじ」と題して、市内各公共施設において、巡回の展示会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/8～15 いちのびあ</li> <li>・11/16～19 メイプル福祉センター</li> <li>・11/22～26 エーガイヤちくさ 千種保健福祉センター</li> <li>・11/27～12/3 生涯学習センター 学遊館</li> <li>・12/6～10 宍粟市北庁舎1階ロビー</li> <li>・12/11～27 宍粟防災センター</li> </ul> <p>*いずれも8:30～17:15まで 各会場とも最終日は12:00まで</p>
事 業 の 効 果	<p>①「防災講座について」</p> <p>参加者の家族から、「孫が自ら家族会議を開き、避難経路や備蓄品の確認などを行った」との声が届いた。アンケートからも「このように親子で参加できる講座は嬉しい」や「身近な防災術をもっと知りたい」「実際に危ない場所などを歩いてみるのも良い」などの意見があり、自主的に防災について考えるきっかけとなった。</p> <p>避難所における、女性視点だからこそ見えてくる環境や必需品などについても考えることができた。</p> <p>②絵本と書籍から学ぶ展示会「わたしもあなたも だいじ だいじ」について</p> <p>日本ではまだまだタブーとされる傾向がある「性」について、子育て世代を中心に年配の方まで、性教育の大切さや、子どもや孫にどのように伝えていけばよいのか、絵本や書籍を通して知っていただき、考えていただく良い機会となった。</p> <p>アンケートからは、「絵本ならスムーズに入れそう」や「自然にコミュニケーションの一部になりそう」「最新の取組みを学ばせていただいた」などの意見をいただくことができた。</p> <p>神戸新聞に掲載されたこともあり、多くの方々に立ち寄ってもらうことができた。</p>



		場所	内容	参加者数	スタッフ数
事業経過	4/9	いちのびあ	・運営委員会 R3 年度事業企画立案	9名	9名
	6/11 6/21	ZOOM 会議 書面にて	・運営委員会 (防災講座について) ・ミモザ全体会 (R3 年度事業の共有)	8名 20名	8名 20名
	7/5 7/9 7月中旬	宍粟防災センター いちのびあ	・ワークショップ (講師: 中村和子氏) ・運営委員会 (防災講座運営協議、 絵本展企画) ・防災講座ちらし作成、印刷、周知 活動	15名 6名	15名 6名
	8/6 8/8	いちのびあ 宍粟防災センター	ハートマップ、譲渡品、防災グッズ等準備 ・運営委員会 (防災講座最終確認) ・当日 (親子 6 組 19 名参加)	20名 8名	20名 8名
	9/17	ZOOM 会議	・運営委員会 (防災講座報告・課題 等/絵本展準備)	28名	9名
	10/4 10/15 10月中旬	いちのびあ いちのびあ	・全体会 (事業の中間報告、共有) ・運営委員会 (絵本展準備) ・ちらし作成及び入稿、本の選定及 び購入、教育委員会後援依頼申請、 公共施設予約、移動当番表作成等、 諸準備	7名 11名 6名	7名 11名 6名
	10/25 10/28 10月下旬	ひなたぼっこ 宍粟防災センター いちのびあ	・POP やパネル等の作成 ・絵本展ちらし仕分け作業 ・各幼、保、子ども園、小、中へちら し配布 (教委メール便と各所へ持参) ・絵本展設置作業	5名 5名 5名 2名	5名 5名 5名 2名
	11/7	いちのびあ	・運営委員会 (巡回中の展示会につ いて改善点等検討/ミモザニュース について)	6名	6名
	11/12	いちのびあ→メイ プル福祉センター	・絵本展移動日 (撤収/設置)	2名	2名
	11/15	メイプル福祉セン ター→エーガイヤ ちくさ	・絵本展移動日 (撤収/設置)	2名	2名
	11/19	エーガイヤちく さ→学遊館	・絵本展移動日 (撤収/設置)	2名	2名
	11/26	学遊館→市役所北 庁舎	・絵本展移動日 (撤収/設置)	4名	4名
	12/3 12/7	いちのびあ 市役所北庁舎→宍 粟防災センター	・神戸新聞に展示会の記事掲載 ・同日、宍粟警察署より「性犯罪被 害相談電話」の周知について展示会 と一緒にさせて欲しいとの依頼あり		
	12/10	宍粟防災センター	・運営委員会 (絵本展について/ミモ	6名	6名

12/10 12/27		ザニュースの原稿について ・絵本展移動日（撤収/設置） ・絵本展最終日（撤収）	3名 1名	3名 1名
----------------	--	---	----------	----------



協働の相手方	②宍粟市教育委員会、市内各公共施設（場所・机等の提供）
今後の展望	<p>①防災には、日頃からの準備や心構えが重要であり、自助・共助の力を備えなければならない。避難所運営においても、女性の視点が必要である。地域における意志決定の場に、女性参画の必要性を求め、理解を深めるために、引き続きこのような機会を提供し、広く地域の方々に考えていただきたい。</p> <p>また、昨年メンバーで防災士資格取得者が、社会福祉協議会のボランティア登録を行ったこともあり、社会福祉協議会のボランティア理事研修会に講師として招待していただき、大変好評をいただいた。このような取組みを継続していきたい。</p> <p>②来年度は、購入した絵本や書籍を利用して、養護教諭と連携をとる、カフェ付きの読書会で交流を図る、あるいは出張読み聞かせを行うなど、引き続き、子どもたちを、性被害の加害者にも被害者にもさせないために、性教育=命の大切さについて広めていく活動につなげていきたい。</p>

【Next×まち育事業】『ひとこま』～ひとコマから始まるつながり～

所在：たつの市新宮町

代表：石井 靖敏

地域：たつの市新宮地域

目  
的

たつの市新宮地区において、地域が抱える課題や現状としては、以下のことが挙げられる。

- ① 少子高齢化・若者の町外流失などにより、地域のあらゆる活動の担い手が不足していること。
- ② 地域の魅力作りや深掘り、またそれらの情報発信が不足していること。
- ③ まちに関わる若い世代の『故郷愛・誇り・愛着』などの【シビックプライド】が減退していること。

その中でも過疎化、少子高齢化、若者の町外流出などの課題が、地域の現状を作り上げている大きな原因の一つであり、地域の担い手不足を解消するためには、地域全体で関わり合いを複合的かつ立体的にする必要があると思われる。また、地域の人・文化財・イベントや地域活動・その他年間を通して開催されている行事など、地域資源としての大変魅力があるにもかかわらず、それぞれのつながりが少なくなり、世代間や地域間、組織や団体などが境界線をまたいで十分に連携ができなくなっており、地域の良さや魅力を効果的に活用したり発信したりできていないように感じられる。

そのため、現状として若い世代を中心に地域との関わり合いの機会が薄れ、ふるさとの魅力を認識できず、しいては故郷に愛着が持てない結果になっていると感じられる。

そして、何より昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、あらゆる世代での交流や地域内でのつながる機会が減少し、さらに状況が悪化している。

これらの課題を解決していくためには、地域全域から幅広い世代の人材を募り、まちの『ハブ的な』役割を担うプラットフォームを構築しながら、地域や人と人をつなぎあわせていく存在が重要になる。そのため、地域全体をつなぎ、情報を集約・発信・共有しながら、まちの様々な形での関わり合いを増やしていく活動が今後必要不可欠になると考える。

今回、その地域をつなぐ方法として、地域住民を主体とし構成される「まち記者」が、まちの魅力を取材し、情報発信につなげる活動を行う。まち記者は、「地域を知る」・「文化・歴史を理解する」・「人やものがつながる」・「伝統や文化を伝える」といったテーマで取材を行い、地域内外に情報を共有していくことで地域間相互の関わり合いをさらに増やしていく。それにより、コロナ禍であっても、地域と人をつなぎ合わせ交流を持続させていく取り組みを行う。

単に取材をするだけでなく、地域や人をつなぎながら学びや地域をおもしろがる要素を盛り込んでいく工夫をし、地域住民が専門的知識や技術を伝授するような活動に幅を広げていく。その過程も含めて情報発信していくことで、新たな関係人口の創出やさらに広域での関係性を構築する事業への発展を視野に入れている。

そして、この事業のすべての取り組みが一体となり、人がまちを育て、まちが人を育てていく『まちを育む』機会に発展していくように進め、我々の地域全体のシビックプライドの醸成につながっていく活動へ展開していく。

今回の『ひとこま』事業は、【人がまちをつなぐ】をテーマに、地域住民がまちの魅力を発掘し、その情報を様々な方法で発信し伝えていく仕組みづくりを行う事業です。

【写真で地域をつなぐ】をめざして、参加者を募り、地域で活動している人や団体、イベントまたは地域資源にスポットを当てて取材を行い、情報を発信していく。その取材から情報発信までの一連の活動の中で、地域の魅力を掘り起こし、人とまちのコミュニケーションを生み出し、地域を元気にしていく活動につなげたい。また、コロナ禍によって分断された人と人との交流やつながりをこの事業により取り戻し、今後も持続可能な取り組みにしていくために実施致しました。

『ひとこまから始まるつながり』とは、取材をもとに記事や写真、動画などで人をつないでいく活動です。取材から得た人生のひとこま、歴史のひとこま、地域のひとこまなどを町内外へ発信することで、人や歴史などの地域の魅力をより多くの人へ共有しながら、この事業へ参加する住民自らが取材を通して地域のコミュニティを運営し、人とまちのコミュニケーションを促進するつながりができることを期待しています。

取材される人、取材する人、記事を読む人、写真や動画を見る人など、『ひとこま』に関わるすべての人にとって、まちの魅力の発見、再認識、深掘りにつなげるきっかけを創出する。その結果、「行ってみたい」、「会ってみたい」、「住んでみたい」という感情が膨らみ、故郷愛が芽生え、地元へ愛着が湧くなど、できるだけ多くの地元住民の方に『シビックプライド』が育まれることを目指しています。

ただ、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きく、私どもが描いていた計画通りに取り組みが進んでいないのが現状です。

本来の計画では参加者を募って『まち記者』を育成する内容にしていたのですが、一般公募をして写真教室を開催し、たくさんの方に来ていただいたのですが、8月の緊急事態宣言の発令により2か月ほど何もできず、期間があいてしまい十分な関係性を継続して築けなかったことで、情報発信のできる体制を整えるまでに至りませんでした。

また、ほとんどのイベントが中止になり、大人数での行動が問題視される中、みんなで集まって「まちあるき」をしながらの撮影に行けなかった事などで『まち記者』を作り出す過程において計画に遅れを生んでしまいました。

兵庫県による、1月27日からのまん延防止措置の要請を受ける形で、計画を進めていた2回目の写真教室と写真展を延期にせざるを得ない状況になっております。しかしながら、これに負けずに当初描いていた事業計画を今後も継続してやり遂げたいと考えています。

緊急事態宣言が解除になってから、「道の駅しんぐう」でイベントに併設して姫新線の写真展を開催したり、写真を使ったワークショップを開催したりと少しずつではありますが、つながりや関係性を作る活動をしてきました。それにより、たつのカメラ部のメンバーの方や龍野北高等学校の写真部の生徒さんなどとも協力体制を生むことができるようになりました。まだまだ活動に制限もあり少人数での活動にはなりますが、良いつながりを生んでいます。

まん延防止措置の対応で延期となり事業期間外にはなってしまいますが、新宮総合支所で『ひとこま』の写真展を開催する予定ですし、今後も『ひとこま』事業に関わってくださった方を中心に情報発信していく体制を整えていくとともに、みんなで一緒になって写真の技術の向上を図っていくつもりです。

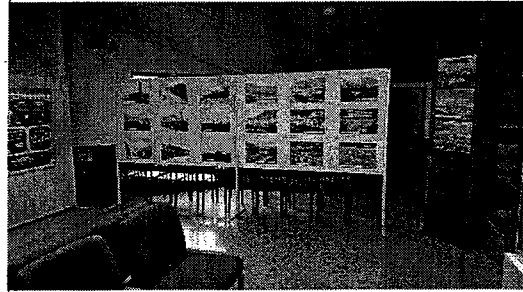
今回の事業により、写真教室に参加してくださった方々やたつのカメラ部のみなさん、龍野北高等学校含め写真部の生徒のみなさんなど、多くの方々とご縁をいただきご協力いただいております。社会福祉協議会さんとも地域の見守り活動に『ひとこま』の事業と連携できないかと相談をさせていただいており協議継続中です。これからも、本年度ご縁をいただいた方々をできるだけ丁寧につなぎ合わせて、焦らずゆっくりと関係を深める事でこの事業で本来成し遂げたい、人がまちを育む、『まち育』につなげていきたいと考えております。

事業の 効果	<p>今回の事業で『写真』というキーワードによる横のつながりが大変広いことに驚いた。『写真』によりできたつながりは、今後この地域で情報発信のハブとなりプラットフォームの基礎になると考える。そして、この先大きな成果を生み出す『種』として期待ができる。</p> <p>同時に、縦でつながっているコミュニティより、「趣味」や「好きなこと」でつながる横のつながりの方が深く強いことに気づき感激した。</p> <p>この横のつながりを活かし、地域の魅力再発見や情報発信の活用を今後も進めていきたい。そして、新たなつながりを模索しながら地域のネットワーク網を充実させていきたいと考える。</p>				
	日時	場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
事業 経過	R3. 8/7 (土) 15 時～17 時	新宮総合支所 しんぐうホー ル	『ひとこま』事業説明とたつの市内の写真家・上吉川祐一さんによる写真教室の開催。 初級編でカメラやスマホで撮るときのコツを伝授してもらう。	20名	8名
	11/3 (祝) 11/21 (日) 9時～12時	道の駅しんぐ う	開催したイベントで姫新線の写真展示及びイベント風景の写真撮影。	イベント 参加者は 多数。 写真撮影 3名	7名
	11/5 (金) 16 時～17 時半	龍野北高校	『ひとこま』事業の企画会議 今後どのように発展させていくかの話し合い。	10名	3名
	12/13 (月) 13 時半～ 15 時	龍野北高校	それぞれが思う『scene good』(しーんぐっと：新宮 good) な写真を持ち寄りプレゼンや感想を伝え合うワークショップ開催。	16名	3名
	R. 4. 1/17 (月) 15 時半～ 17 時半	龍野北高校	上吉川さんによる個別講座。 これまでに撮ってきた写真を見ながら、よくするにはどうすればよいか講習してもらう。	9名	2名
	1月下旬 2月14日 ～(延期)	新宮総合支所	開催予定にしていた写真教室及び、『ひとこま』写真展をまん延防止を受けて延期。		
	2月24日 (木)、27 日(日) 3月14日 ～末まで (調整中)	たつの市内  新宮総合支所	写真教室、中級まちあるき編を実施予定。  『ひとこま』写真展を開催予定。 準備中。(事業期間外ですが開催したいと熱望している。)		

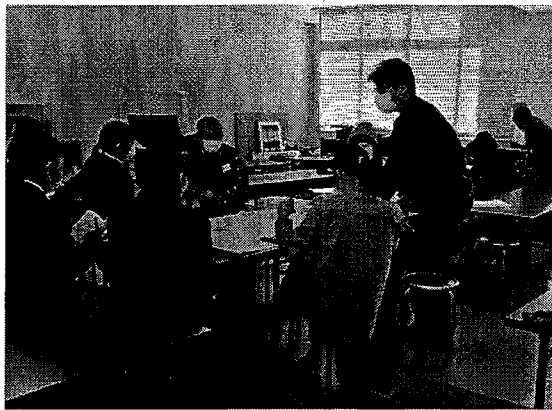
8月7日『プロから学ぶ☆フォトレッスン』  
上吉川さんによる写真講座の風景



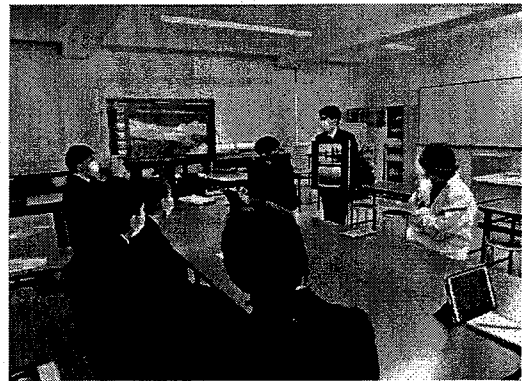
11/3 (祝) ~ 11/21 (日)  
「道の駅しんぐう」でイベント会場2階  
スペースでの姫新線写真展



12/13 (月) 龍野北高校での写真を使ったワ  
ークショップ開催



令和4年1/17 (月) 上吉川さんの個別写  
真講座



<p>協働の相手方</p>	<p>たつの市 (新宮総合支所) 兵庫県立龍野北高等学校</p>
<p>今後の展望</p>	<p>更に地域を広げ、たつの市全域でこの活動を進めていく体制を構築していく。 『ひとこま』の事業開始時期と同じくして、たつの市の観光協会のホームページ『たまにはたつの観光』が新しくリニューアルされました。その中でたつの市の魅力を発信する『たつのフォトリポーター』の募集も開始されました。この取り組みと連携をして、地場産業・特産品・観光スポット・イベントなどの情報発信を市民の力で活発にしていきたい。また、行政や観光協会、学校などとも継続して協働しながら、地域の魅力づくりを行う『シティプロモーション事業』に転換していきたい。また、社会福祉協議会とも連携を深め、写真による地域のつながりづくりや新たな見守り活動など、次の事業展開を検討している。 今年できなかったが、『村ごと写真展』の実現も目指していきたい。</p>

# 加里屋城下町ウェディング実行委員会

## ～赤穂義士のふるさと～赤穂お城ウェディング

所在：赤穂市

代表：水野 香保里

地域：神戸、西播磨（赤穂市内）

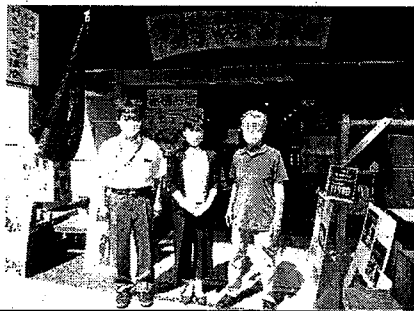
<p>目的</p>	<p>〔地域の現状〕 赤穂市の中心部加里屋地区は、歴史も古く昔の城下町の面影を残した素晴らしい街並みが魅力です。赤穂城跡や赤穂義士をお祀りした大石神社、浅野家の菩提寺花岳寺等、「忠臣蔵のふるさと」として多くの観光客が訪れています。しかし、近年忠臣蔵を知らない世代が増え、また2020年より世界的に広がる新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけ、赤穂城周辺を訪れる観光客は激減しています。そして、依然続くコロナ禍でイベントやお祭りも2年連続中止が続き、町の灯りが消えたような閉塞感漂っております。また、若者を取り巻く結婚式もコロナ禍で規模の縮小、中止や延期が続いております。</p> <p>〔地域の課題〕 地域住民や商店街だけでは町おこしのイベントを実施できない。 赤穂の歴史的財産である「赤穂城」や「忠臣蔵」を活かしきれていない。 結婚式を挙げたくても都市部まで行きにくい。また、従来の結婚式は挙げにくい。</p> <p>〔解決方法〕 昨年度より赤穂城周辺・加里屋地区の魅力に着目した当団体が中心となり、地域住民と共に結婚事業を展開することにより、賑わいをもたらしたいと考えました。コロナ禍でイベントは開きにくい現状ではありますが、コロナ禍でも人と人の出会いはなくなりません。むしろ、積極的に結婚事業を進めることで、結婚をする世代の皆様を応援し、中心市街地、赤穂城周辺の活性化に繋げ、元気な赤穂・西播磨を目指します。</p>
<p>内容</p>	<p>忠臣蔵のふるさと赤穂ならではの結婚式を行うことで地域の元気を創出する。今年度は、 赤穂城を中心に伝統文化も取り入れた結婚式を行いました。 そして、赤穂の結婚事業を広める為に広報活動も積極的に行いました。 ○広報活動※SNSを使っての情報発信は昨年に引き続き行う。 &lt;PRチラシ・ポスターの作成&gt; ①加里屋城下町ウェディング（2020/11/29 実施の内容、写真を掲載） ②「赤穂お城ウェディング」（令和3年度実施の内容、写真を掲載）※作成中 &lt;PR活動&gt; ①西播磨地域に広くポスターを掲示する。 ②アンテナショップ「西播磨ふるさと特産館“好きやde西播磨”」（神戸市中央区北野町）に出向き、店頭でのチラシ配布。（ポスター掲示） ○赤穂お城ウェディング 11月29日 赤穂城跡でフォトウェディング 12月5日 赤穂城跡でお城ウェディング ・太鼓橋にて 赤穂城隅櫓をバックに写真撮影 ・大石神社にて 奉告祭 ・赤穂城跡内を人力車にて花嫁道中 ・赤穂城跡でセレモニー ・恵比寿大黒舞の披露・地酒「忠臣蔵」の鏡開き・紅白持ちのふるまい ○写真展</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度実施のウェディング写真と伝統文化の紹介コーナー 場所：加里屋旅館Q、桃井ミュージアム、旧坂越浦会所</li> <li>○伝統文化のとの融合 <ul style="list-style-type: none"> <li>①新郎新婦緞通体験（赤穂緞通研修工房つむぐ）</li> <li>②恵比寿大黒舞</li> <li>③赤穂の地酒の紹介</li> </ul> </li> </ul>				
事業の効果	<p><b>【元気な地域づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でお祭りやイベントがなくなった赤穂城周辺で実施することで、中心市街地に賑わいが生まれました。</li> <li>・赤穂の観光を代表する「赤穂城跡」「大石神社」等を舞台とした結婚式とし「義士の町赤穂」をPRできました。</li> <li>・昨年度に引き続き、加里屋地区にある古民家旅館「加里屋旅館Q」にもご協力いただき、地域の賑わいに繋がりました。</li> <li>・地域に昔から伝わる「恵比寿大黒舞」を披露していただくことで、古き良き時代の風習を伝承しました。（恵比寿大黒舞は江戸時代化から赤穂に伝わるめでた舞）</li> <li>・地域内にある緞通工房にて新郎新婦に緞通体験をしていただくことで、赤穂の伝統文化の継承にも繋がっていくことができました。</li> <li>・実施後、写真展を開催することで、一日だけのイベントではなく、期間として地域に足を運んでいただくことができました。</li> </ul> <p><b>【結婚応援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で結婚式を挙げにくい現状。記念に残る結婚式になりました。</li> <li>・市内外の方に赤穂でも結婚式ができたり、結婚の写真撮影ができたり、素晴らしい場所があることを広く知っていただけました。</li> <li>・赤穂ならではの結婚式の魅力を知っていただき、都市部の出向かなくても、新しいスタイルで結婚式ができることを広めることができました。</li> </ul>				
事業経過	月日	場所	内容	参加者数	スタッフ数
	9月1日	赤穂市・西播磨	ウェディングカップル募集開始		3人
	9月19日	神戸市	アンテナショップ「西播磨ふるさと特産館“好きやde西播磨”」にて広報活動	2人	2人
	9月26日	赤穂緞通研修工房つむぐ	赤穂緞通の聞き取り	2人	3人
	10月6日	加里屋まちづくり会館	カップル決定（実行委員会）	6人	3人
	11月3日	赤穂緞通研修工房つむぐ	新郎新婦赤穂緞通体験	50人	4人
	11月29日	赤穂城跡	お城ウェディング（フォトウェディング）	3人	7人
	12月5日	赤穂城跡	お城ウェディング	約100人	2人
	1月8日	さつき町集会所	恵比寿大黒舞の聞き取り		4人



1月14日	加里屋旅観Q	写真展①加里屋旅館Q 準備 1月15日(土)～1月25日(火)	約70人	4人
1月28日	桃井ミュージアム	写真展②雲火焼展示館桃井ミュージアム 準備 1月29日(土)～2月7日(月)		4人
2月11日	旧坂越浦会所	写真展③旧坂越浦会所 準備 2月12日(土)～2月21日(月)		

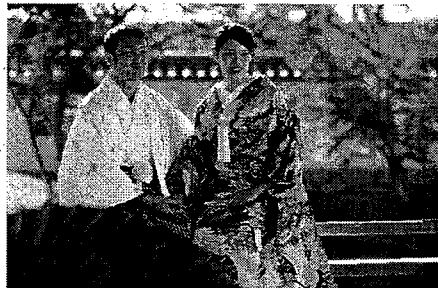
9月19日(神戸市中央区北野町)  
アンテナショップ「西播磨ふるさと特産館 “好きやde 西播磨”」にて広報活動



11月3日赤穂緞通研修工房つむぐにて  
新郎新婦赤穂緞通体験



11月29日赤穂城跡にて  
お城ウェディング(フォトウェディング)



12月5日赤穂城跡にてお城ウェディング



協働の  
相手方

今後の  
展望

- ・イベントだけで終わるのではなく、継続して結婚式を行っていただけるようバックアップする。
- ・市内だけでなく市外にも出向き、積極的にPR活動を行う。
- ・同じような取り組みを行っている地域と連携を深め、西播磨の結婚事業として広めていくことで、若者の定住促進、人口増加につなげていきたい。
- ・赤穂オリジナルの歴史や文化を活かしたオンリーワン結婚式を行う。
- ・地域の伝統文化(赤穂緞通、恵比寿大黒舞等)との融合をはかる。
- ・コロナ禍で困っている結婚世代の方達に向け広報活動に力をいれる。
- ・継続して結婚式が行えるしくみを確立していく。
- ・赤穂市の観光や定住促進担当と連携をはかり、地域に根差したものにしていく。

# 佐用まちづくり塾

## 佐用まちづくり塾

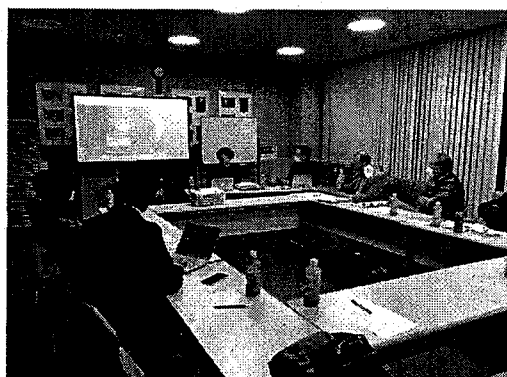
所在：佐用町

代表：春名 政男

地域：佐用町平福

<p>目的</p>	<p>〔地域の現状〕          現在、佐用町は過疎化が進み、住民も観光人口も急激に減少しており、地域に元気がなくなっている。各地域づくり協議会等において、地域課題を解決するため様々なまちづくり事業が展開されているが、既存のまちづくり団体の活動では満足はいく事業効果は得られていないと感じている。私たち地域住民にとってまちづくり事業について素人であり、財力もノウハウも不足している。また、当該地域には自然や歴史的資源が数多くあり、交流人口の増加に期待がかかるが、現状ではそれを生かしていない。昨今では、利神城跡の国史跡指定で歴史的資源の活用等への関心や、小学校の統廃合による地域存続の危機感が地域住民の中で高まっている。昨年度は、これを機にまちづくりのノウハウを学ぶべく、「佐用まちづくり塾 実践編」を実施したところである。</p> <p>〔地域の課題〕          当該地域では、人口減少が急速に進行し、地域存続の危機に陥っている。また、空き家の増加による景観の悪化も課題。将来を見据えて、空き家を活用した移住促進政策を進める必要がある。</p> <p>〔解決方法〕          上記課題を解決するために、佐用町と連携し、地域内にある空き家の活用による、移住促進施策を展開する。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 空き家活用のための知識習得</li> <li>② 地域内の空き家情報を集約</li> <li>③ 空き家の所有者に町の空き家バンクに登録</li> <li>④ 空き家バンクの運営（町）</li> <li>⑤ 空き家の紹介（町と連携）により移住者を増やし、人口減少を食い止め、さらには空き家の減少により景観の保持に努める。</li> </ol>
<p>内容</p>	<p>地域内にある空き家の活用による、移住促進施策を展開する。</p> <p>当初は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 空き家活用のための知識習得（講座等）</li> <li>② 地域内の空き家情報集約</li> <li>③ 空き家バンクの登録</li> <li>④ 空き家バンクの運営（町）</li> <li>⑤ 空き家の紹介（町と連携）</li> </ol> <p>移住者を増やすことで、人口減少に歯止め及び景観の保持に繋げる予定であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、①については不特定多数の参加者を対象とする講座が実施できず、佐用まちづくり塾と自治会役員を対象とした講座とし、⑤については、登録実績が上がらず、実施に至らなかった。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 町商工観光課による「空き家出前講座」を実施</li> <li>② 平福地域内の空き家マップの作製及び空き家管理者情報の集約（作成中）</li> <li>③ 空き家所有者等に空き家バンク登録を促すために、チラシを作成し、全戸配布を実施。</li> </ol>

事業の効果	一番の目的であった、移住促進については、実績がゼロという結果に終わったが、町出前講座の実施により、自治会の空き家事業に対する機運を高め、空き家情報の集約により、基礎資料の整備ができたことにより、今後、この事業を継続することで、実績につながると考えている。				
事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	5/8	佐用町地域福祉センター	自治会に対する事業説明	10名	2名
	6/9	佐用町地域福祉センター	空き家出前講座（講師：佐用町商工観光課）	10名	5名
	12/24	平福地域内	チラシ全戸配布		
	随時	佐用町地域福祉センター等	チラシ作成、空き家マップ作成、空き家情報集約、空き家所有者との交渉		



協働の相手方	平福地域づくり協議会、自治会、佐用町
今後の展望	今年度実施できなかった講座等の実施及び、啓発活動の継続。

避難所ビジュアル運営マニュアル作成

所在：たつの市揖保川町

代表：生駒 憲二

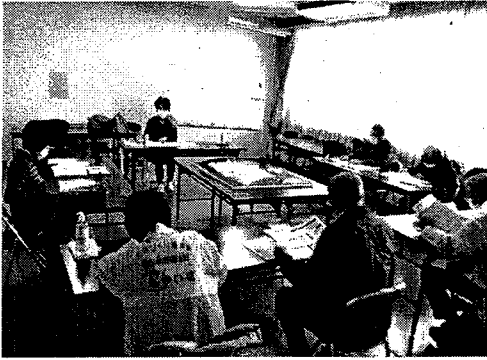
地域：たつの市揖保川町神部地域

<p>目的</p>	<p>今回の企画は、コロナ禍で事業に制約がある中、【避難所ビジュアル運営マニュアル】が地元の小学校と協力して、防災マニュアルの教材として活用されます。</p> <p>〔地域の現状〕          当該地域は、一級河川の揖保川と支流の馬路川を擁した地域にあります。特に馬路川は、過去に台風や大雨等で浸水被害があり地域住民の方々もできるだけ『命を守る行動』として早めの避難をされています。</p> <p>反面、コロナ禍の中で避難所である神部小学校が適切な避難所運営が行えるか懸念をもっています。</p> <p>〔地域の課題〕          当該地域は、3大課題（高齢化・活性化・防災力）の一つである高齢化が進みつつありの発災の際に自助での避難が難しくなっています。</p> <p>また、ここ最近、収束の見えない「新型コロナ」という新たな見えない生物災害も発生しており地域住民の方々の共助による防災力向上が不可欠となります。</p> <p>〔解決方法〕          児童が就学中に発災した時等を想定して、神部小学校内での避難経路を専門知識がある方とともに確認しました。現行の避難経路の課題をビジュアル化にし、その結果をもとに校長以下先生方含めてコロナ禍での新しい避難所運営マニュアルの検討・作成を行います。</p> <p>また、地域住民の方々には、この避難所ビジュアル運営マニュアルにて避難所運営が、スムーズに混乱なく行えるようになります。</p> <p>この両方を実施することで、コロナ禍でも児童～地域住民の方々の防災力向上が具体的に実現すると考えて企画しました。</p> <p>今回の避難行動と避難所運営マニュアルが整備されれば、次世代への継承がスムーズになるものと考えます。</p>
<p>内容</p>	<p>(1) 事業の内容と展開手法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回事業の対象である『神部小学校校舎と体育館』の立体模型を製作しました。小学校の校内通路等も可視化を工夫して製作しました。</li> <li>・校内通路に避難途中の児童模型を配置するとともに、実際の避難状態をビジュアル化にして、避難経路等の危険個所が明確となるようにしました。</li> <li>・専門知識を有するの方々による避難所運営ゲーム（HUG）実施と動画撮撮を行いコロナ禍対応の避難所運営の課題を記録として残しました。</li> <li>・HUGの結果をもとに、神部小学校の立体模型に避難者の人員配置や移動車両、災害本部設置等の避難所運営がスムーズとなるよう想定される避難状況を再現しました。</li> <li>・追加として、「防災クイズ」チラシを作成し当該小学校の6年生に授業中に火災と地震発災時の避難行動を回答してもらい防災学習第4回実施として、災害形態と防災意識向上をさらにはかります。</li> <li>・今回の結果を神部小学校児童や校長以下先生方及び各自治会会長会並びに自主防災会組織にも提供して当該地区の防災力向上を目指しました。地元の防災士さんの協力も得ての開催となりますので、たつの市含めて広域へアピールしました。</li> </ul>

事業の 効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは張り紙だけの避難経路図でしたが、今回具体的な小学校内の避難経路のビジュアル化と新避難所運営マニュアルを作成できました。防災学習を通じて、発災時での児童たちの避難行動が減災・防災に対する心構えが変わって防災意識のさらなる向上があると考えます。</li> <li>・今回ビジュアル化することで、校内の避難経路図と階段位置等、視認性向上品を設置したので発災時の緊急避難がスムーズに行われると推察できます。</li> <li>・児童たちが、「地震・火災の防災クイズ」へ回答したことで、突発的な発災時の避難行動が素早くとれ「命を守る行動」が向上しました。</li> <li>・地域指定避難所である神部小学校を児童から高齢者まで地域住民の方々は、避難所運営が、ジオラマによる立体模型を見ながらの確認となり理解度が向上しました。地域防災士や自主防災組織をリーダーとしたコロナ禍での避難所運営がスムーズとなり慌てず、騒がず、混乱せずの避難所運営が可能となります。</li> </ul> <p>〔次年度以降の事業の展開見込み〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これを機に座学だけでなく自主防災組織を中心とした地区防災計画作成等で事前防災・事後防災での防災体験訓練も並行して実施し、さらなる安心・安全なまちづくりを目指します。</li> <li>・今回の、製作資材は地域防災教育・小学校での防災学習の「教材」として期待されており活用されるものと思われます。</li> <li>・「神部小学校校舎と体育館のジオラマ」は、神部小学校校舎内に常備配置されることとなりました。</li> </ul>
-----------	---

事業 経過	日 時	場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	6月1日	揖保川文化センター	当初の計画は、新型コロナまん延防止対応のため中止	無	無
	8月12日	神部小学校	イベント内容打ち合わせ	2名	6名
	8月13日	揖保川文化センター	校舎等の作製検討会 校舎・体育館その他作製	無	67日/ 402名
	9月9日～ 12月17日	揖保川文化センター	小学校内撮影	講師1名	8名
	12月19日		HUGを立体模型使用して ワークショップ開催		
	12月24日	神部小学校	ジオラマ展示方法検討会	2名	2名
	R4年1月6日 1月12日	揖保川文化センター	ジオラマ展示方法対応加工		4日/ 8名
	R4年1月13日	神部小学校	防災クイズチラシ配布	児童70名 先生20名	
	R4年1月18日	揖保川文化センター	避難所運営検討会		6名
	R4年1月20日	神部小学校	今後の避難所運営の展開検討 と反省会	校長先生 以下3名	5名

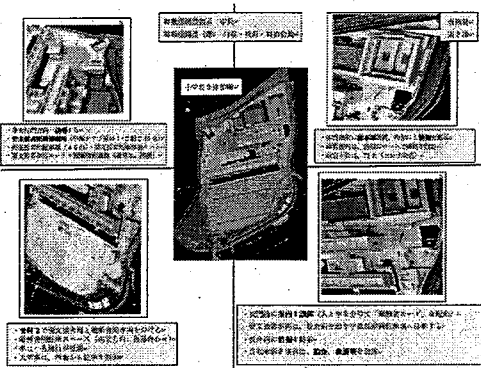
12月19日 ジオラマ使用にてHUG講習



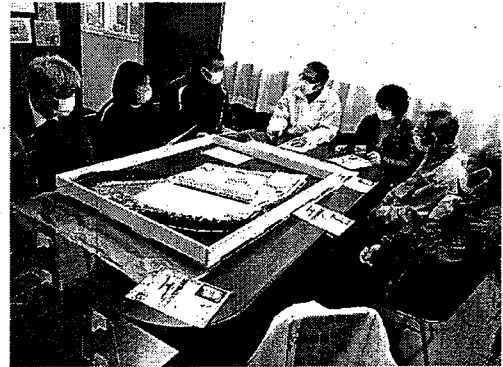
令和4年1月13日 防災クイズチラシ  
(両面印刷)



令和4年1月18日 避難所運営検討会



令和4年1月20日 神部小学校で反省会



<p>協働の相手方</p>	<p>神部小学校 竜野駅周辺地区まちづくり協議会</p>
<p>今後の展望</p>	<p>[次年度以降の事業の展開見込み] これを機に座学だけでなく自主防災組織を中心とした地区防災計画で事前防災・事後防災での防災体験訓練も並行して実施する予定です。</p>

# 3Mプロジェクト協議会

## アートでエールを2021

所在：赤穂郡上郡町

代表：安則 眞一

地域：西播磨地域全域

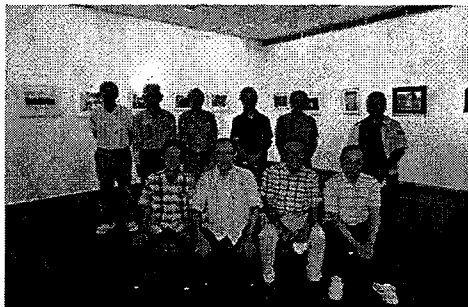
目的	<p>昨年開催し好評であった「テクノ・アート・サマー2020」を引き継ぎ、播磨科学公園都市のインフラを有効活用して、コロナウィルスの影響で我慢を強いられる毎日を送る皆さんに潤いを届ける活動として、「アートでエールを2021」と銘打って「テクノ魅力ポイント写真展」、「レコードコンサート」、「センターサークル野外ライブ」を開催し、芸術文化の拠点として播磨科学公園都市の付加価値をさらにアップさせる。</p>
内容	<p>○テクノ魅力ポイント写真展 9月20日（月）～9月26日（日）先端科学技術支援センター展示室 9:00～17:00 出展者 12名 出展写真 45点 来場者延人数 102名</p> <p>○輝いていたあの時を呼びさますレコードコンサート 9月25日（土）先端科学技術支援センター 大ホール 14:00～16:00 司会進行 三浦紘朗 来場者数 57名</p> <p>○センターサークル野外ライブ 9月26日（日）センターサークル駐車場 19:00～20:30 でりずむ（民族楽器演奏）雪月風花（オカリナ&amp;ピアノ演奏） 姥名字摩（津軽三味線演奏） 演奏の様子はFaceBookWebpageでライブ配信 来場者数 96名</p> <p>WebPage ライブ投稿 9/26～ リーチ数 473 再生回数 306回 12/1 現在 でりずむ 編集投稿 11/4～ リーチ数 102 再生回数 90回 12/1 現在 雪月風花 編集投稿 11/14～ リーチ数 61 再生回数 49回 12/1 現在</p>
事業の効果	<p>○テクノ魅力ポイント写真展 地元の写真愛好家の12名の協力を得て45点の作品を展示した 播磨科学公園都市の魅力が再確認出来た写真展になったと思われる</p> <p>○レコードコンサート 昨年のビートルズ特集に引き続き、今回はベンチャーズ特集を企画した 参加者の多くが60代～70代でリピーターの方も多く、文字通り「輝いていたあの時を呼びさますレコードコンサート」になったと思われる</p> <p>○センターサークルで野外ライブ Web配信を実現できたことは、コロナ禍で外出を見合わせた方々も自宅等での鑑賞が可能となり、今後のイベントの在り方に一石を投ずることが出来た</p> <p>○播磨科学公園都市を芸術文化の拠点とする試みはまだまだ可能性を十分に含んでいると確信できた 新型コロナウイルスの影響下感染対策に努め、天候にも恵まれ、すべてのイベントを盛況で終えられたことに感謝している。</p>

事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	2021/04/22	先端科学技術支援センター	会場確認		4名
	2021/04/24	エトランゼ	写真展打合せ		4名
	2021/05/4	先端科学技術支援センター	会場確認		5名
	2021/06/23	菊森さんの家	写真展打合せ		5名
	2021/08/05	光都土木事務所	情報交換		5名
	2021/8/23	菊森さんの家	展示写真用額整理		3名
	2021/08/31	上郡町派出所、 播磨科学公園都市派出所	野外ライブ開催の届け提出		
	2021/09/01		展示写真選択		3名
	2021/09/04		野外ライブオンライン配信打ち合わせ (はりま倶楽部)		3名
	2021/09/11		野外ライブオンライン配信テスト		2名
	2021/09/09 ~09/14		展示写真額装		1名
	2021/09/11		神戸新聞西播版に記事掲載		
	2021/09/15		展示写真準備打合せ		2名
	2021/09/20	先端科学技術支援センター展示室	テクノ魅力ポイント写真展会場 設営		10名
	2021/09/20 ~09/26	〃	写真展受付	延べ 102名	12名
	2021/09/25	先端科学技術支援センター大ホール	輝いていたあの時を呼びさまず レコードコンサート	57名	10名
2021/09/26	先端科学技術支援センター	写真展片づけ		7名	
2021/09/26	センターサークル駐車場	センターサークル野外ライブ	96名	12名 & 演9名	
2021/11/30	菊森さんの家	反省会		10名	

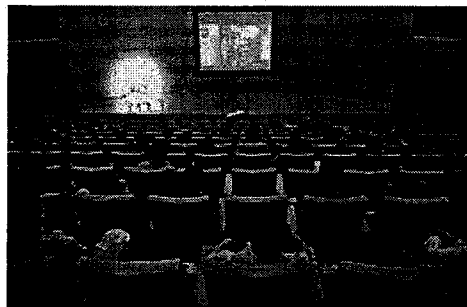


<p>協働の相手方</p>	<p>○テクノ魅力ポイント写真展        地元写真愛好家 12名皆さんに協力を頂いた</p> <p>○レコードコンサート        音響機材について佐用オーディオ倶楽部（SACD）さんに、        ベンチャーズのレコードについては中尾健二さんに、        音楽イメージ画像作成については内田 泉さんの協力を頂いた</p> <p>○センターサークル野外ライブ        ライブ会場については兵庫県光都土木事務所さんに、        ライブのオンライン配信については白川文彦さんの協力を頂いた</p>
<p>今後の展望</p>	<p>過去4年間、我々が取り組んできたテクノ・ジャズ・フェスティバルは新型コロナウイルスの影響で今年度も開催を見送った        その間に、地元ミュージシャンをはじめ多くの方々の協力を頂いて、播磨科学公園都市を芸術文化の拠点とする試みを続けることにより、コロナウィルスが落ち着いた後に、次のステップが踏める多くの材料が蓄積できたと思われる、よって次のステップの検討を進めたいと思っている</p>

9/20 写真展会場設営



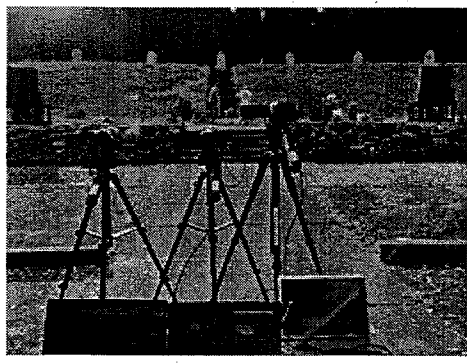
9/25 レコードコンサート



9/26 野外ライブ



センターサークル野外ライブ準備



# 特定非営利活動法人 しそう夢鉄道

## 鉄道のない町宍粟市を鉄道模型で地域活性化

所在：宍粟市山崎町

代表：小寺 一成

地域：西播磨地域

<p>目的</p>	<p>人口の減少、高齢化で町のにぎわいが減少し若者が少ない。観光資源として運営していた場所が閉鎖になるなど、季節ごとの集客にも限界があるが、近年ではまちおこしのリノベーション物件や特徴的なレストランなども増えつつあり、森林セラピーなど山と自然の活用にも取り組んでいる。現在コロナ禍で活動低迷中。 新しい取り組み、魅力的な地域資源が存在するが、地域を超えた広がりにつながっていない。 異業種、幅広い年齢層、地域を超えた思いきった連携や事業の工夫が必要である。この度町おこしを目的としたリノベーション物件で鉄道模型交流館【しそう夢鉄道】を開設し、NPO 法人として宍粟市のにぎわい創出に貢献したいと思う。また鉄道模型に特化することで、余暇と趣味を活用した新しいボランティアの形を提案することで、関わる人のすそ野を広げたい。</p>
<p>内容</p>	<p>11年間宍粟市山崎町で活動した『いろり夢鉄道』の実績をベースにして、2020年12月にNPO 法人しそう夢鉄道を設立し、場所をまちおこしのためのリノベーション物件に移行し、2021年8月にかけて従来の鉄道模型ジオラマレイアウトの解体移設作業と新規設営作業を行いました。 ジオラマ作成体験イベント等も開催しながら、8月13日に『鉄道模型ジオラマ交流館しそう夢鉄道』開館にこぎつけました。 開館後は土日祝日を開館日として見学・体験等を通して鉄道模型ジオラマの魅力を地域の人や各地からの来館者への発信をメインに行いながら、定期的いろんなイベントを開催して、子どもたちの健全育成や町の賑わいの一助に貢献できていると思います。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>コロナ禍がなかなか収束せず、コロナ禍での開設作業と開館となってしまいましたが、地元の情報誌やメディアや企業の協力も得られて、地域の方々をはじめ県内外の方々にも認識していただき、イベント等も通してそこそこは町の賑わい交流にも貢献できていると思います。 鉄道模型やジオラマの魅力も多くの方々に発信できていると感じますが、コロナ禍の影響もあり団体様の集客においては苦戦しています。 コロナが収まってからの活性化に期待したいです。</p>
<p>相手方の協同</p>	
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が収束した後より多くの鉄道模型関連団体等にPRしていき、団体利用をもっと増やしていきたい。</li> <li>・鉄道模型出張イベントも早くしたい。</li> <li>・今後より地域に密着したイベント等も行っていっていき、地域との繋がりをより深めていきたい。</li> <li>・宍粟市を中心に西播・兵庫県、そして日本全国から世界へとPRし今後より多くの集客につなげていきたい。</li> </ul>

事業経過	日時	会場	内容	参加	スタッフ
	4/4	いろり夢鉄道	移設運搬作業		9
	4/11	しそ夢鉄道	設営作業 印刷物協議		12
	4/18	しそ夢鉄道	設営作業		9
	4/25	しそ夢鉄道	設営作業		9
	4/29	いろり夢鉄道	移設運搬作業		10
	4/30	しそ夢鉄道	設営作業		5
	5/1	しそ夢鉄道	設営作業		5
	5/2	しそ夢鉄道	設営作業		4
	5/3	しそ夢鉄道	設営作業		8
	5/4	しそ夢鉄道	設営作業		11
	5/5	しそ夢鉄道	設営作業		4
	5/8	しそ夢鉄道	設営作業		2
	5/9	しそ夢鉄道	設営作業 ・決算書報告書資料作成		2
	5/16	しそ夢鉄道	設営作業 ・総会資料作成		9
	5/23	しそ夢鉄道	設営作業 ・総会会計監査・資料案内送付		11
	5/30	しそ夢鉄道	設営作業 ・総会 11:00より		11
	6/6	しそ夢鉄道	ジオラマ作成作業		7
	6/13	しそ夢鉄道	ジオラマ作成作業		10
	6/20	しそ夢鉄道	ジオラマ作成作業		10
6/27	西播磨県民局	ジオラマ作成作業 『西播磨地域づくり活動応援事業』プレゼン		7	
6/30	宍粟市役所	ジオラマ作成作業 『しそ元気げんき大作戦』プレゼン		4	
7/4	しそ夢鉄道	ジオラマ作成作業		10	
7/11	しそ夢鉄道	作業計画確認と運営方法についての会議		8	
7/18	しそ夢鉄道	設営作業		6	
7/23	いろり夢鉄道	移設運搬作業		10	
7/25	しそ夢鉄道	ジオラマ作成作業 ・イベントチラシ配布 周知活動		5	
7/31	しそ夢鉄道	ジオラマ作成作業 ・オープン準備		6	
8/1	しそ夢鉄道	ジオラマ作成作業 ・オープン準備		6	
8/3	宍粟市役所	宍粟市公共施設リーフレット配布・会員 個々案内営業開始		2	
8/4	周知活動	観光案内所営業リーフレット配布		1	
8/5	周知活動	近隣自治会様挨拶と招待状配布		2	
8/6	社会福祉協議会	『宍粟市社協助成金』報告		1	

8/7	しそう夢鉄道	ジオラマ作成作業		4
8/8	しそう夢鉄道	ジオラマ作成作業 相生道の駅リーフレット配布		9
8/9	しそう夢鉄道	ジオラマ作成作業・イベントチラシ配布周知活動		4
8/11	周知活動	山崎町商店街挨拶と招待状配布		1
8/12	しそう夢鉄道	ジオラマ作成作業		4
8/13	しそう夢鉄道	プレオープン ・ 『神戸新聞/宍粟社会福祉協議会』取材	31	9
8/14	しそう夢鉄道	プレオープン	47	8
8/15	しそう夢鉄道	プレオープン	52	10
8/19	周知活動	酒蔵通り営業賛助会員依頼リーフレット配布		2
8/21	しそう夢鉄道	開館	25	5
8/22	しそう夢鉄道	開館 ・ イベント『ペーパークラフト教室』 ・ 『しそうチャンネル』取材	44	12
8/23	周知活動	賛助会員様依頼訪問		1
8/28	しそう夢鉄道	開館	6	6
8/29	しそう夢鉄道	開館 ・ サンテレビ取材	30	9
8/30	周知活動	賛助会員様依頼訪問		1
8/30	周知活動	賛助会員様依頼訪問		1
9/2	周知活動	イベントチラシ(写真撮影)配布・周知活動		2
9/4	しそう夢鉄道	開館	20	5
9/5	しそう夢鉄道	開館 ・ 『宍粟市商工会広報誌』取材	15	7
9/10	周知活動	賛助会員様訪問打ち合わせ		2
9/11	しそう夢鉄道	開館 ・ 設営作業(保護シート設置)	17	7
9/12	しそう夢鉄道	開館 ・ 『しそう夢鉄道倶楽部走行会』	50	6
9/16	しそう夢鉄道	『団体見学会』(長野森林セラピー)	8	2
9/17	社会福祉協議会	『ジオラマ模型見学会』打ち合わせ		1
9/18	しそう夢鉄道	開館 ・ 設営作業(レイアウト足場補強)	25	5
9/19	しそう夢鉄道	開館	23	7
9/20	しそう夢鉄道	開館 ・ 印刷物(ポスター協議)	30	5
9/22	周知活動	『きてーな宍粟』		2
9/23	しそう夢鉄道	開館	21	4
9/24	周知活動	各位ポスター貼依頼(西播磨・国見)		2
9/25	しそう夢鉄道	開館	7	6
9/26	しそう夢鉄道	開館 ・ 設営作業(LED管入替) ・ 『しそう夢鉄道倶楽部走行会』	26	6
10/1	しそう夢鉄道	『ジオラマ模型見学会(手話サークルひとみ)』	12	6

10/2	しそ夢鉄道	開館 ・設営作業 (LED 管入替)	5	7
10/3	しそ夢鉄道	開館 ・設営作業 (電車配線)	19	2
10/5	周知活動	イベントチラシ (紙すき) 配布・周知活動		3
10/9	しそ夢鉄道	開館 ・『奥播磨夢倶楽部』取材	21	8
10/10	しそ夢鉄道	開館・イベント『ジオラマ写真撮影』写真 展示会・『しそ夢鉄道倶楽部走行会』	5	6
10/14	周知活動	大口賛助会員様訪問打ち合わせ		2
10/15	社会福祉協議会	社会福祉協議会見学会報告と次イベントの案内		1
10/16	しそ夢鉄道	開館	17	3
10/17	しそ夢鉄道	開館	15	8
10/21	しそ夢鉄道	大口賛助会員様訪問打ち合わせ		1
10/23	しそ夢鉄道	開館 ・設営作業 (電車配線)	3	4
10/24	しそ夢鉄道	開館 ・『しそ夢鉄道倶楽部走行会』	7	6
10/26	しそ夢鉄道	大口賛助会員様訪問打ち合わせ		2
10/30	しそ夢鉄道	開館 ・設営作業 (電車配線)	10	3
10/31	しそ夢鉄道	開館	15	8
11/1	周知活動	賛助会員様依頼訪問		1
11/2	神戸法務局	神戸法務局 名義変更手続き		2
11/3	しそ夢鉄道	開館	2	6
11/6	しそ夢鉄道	開館	16	5
11/7	しそ夢鉄道	開館 ・招待券作成	12	5
11/13	しそ夢鉄道	開館	6	2
11/14	しそ夢鉄道	開館 ・『しそ夢鉄道倶楽部走行会』	19	7
11/19	周知活動	イベントチラシ (紙すき) 配布・周知活動		2
11/20	しそ夢鉄道	開館・会議 (今後の運営イベント企画について)	24	11
11/21	しそ夢鉄道	開館・設営作業 (2F 防寒対策ボード設置)	33	6
11/23	しそ夢鉄道	開館	5	4
11/27	しそ夢鉄道	開館	6	4
11/28	しそ夢鉄道	開館 ・『しそ夢鉄道倶楽部走行会』	5	5
11/30	しそ夢鉄道	移設運搬作業 踏切遮断機		2
12/1	しそ夢鉄道	大口賛助会員様訪問打ち合わせ		1
12/4	しそ夢鉄道	開館・『こども貨物列車』協力企画 (12/4~R4.2/27)	18	4
12/5	しそ夢鉄道	開館	15	4
12/11	しそ夢鉄道	開館 ・クリスマスイベント (12/18.19.25.26) 準備		3
12/12	しそ夢鉄道	開館 ・『しそ夢鉄道倶楽部走行会』	13	7
12/18	しそ夢鉄道	開館 ・『X's エクスプレスイベント』・ 設営作業 (1F 防寒ボード設置)	5	5

12/19	しそう夢鉄道	開館 ・ 『大和高田鉄道クラブ交流会』 ・ 『チラシで紙すきイベント』	24	12
12/25	しそう夢鉄道	開館 ・ 『X's エクスプレスイベント』	4	6
12/26	しそう夢鉄道	開館 ・ 『X's エクスプレスイベント』 ・ 『しそう夢鉄道倶楽部走行会』	5	3



利神城にジャコウアゲハが舞う日まで

所在：佐用郡佐用町

代表：野村 久雄

地域：佐用町平福地域

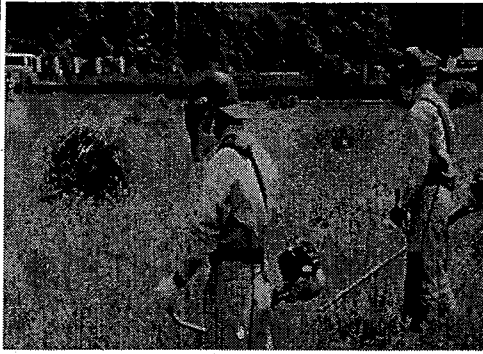
目的	<p>ジャコウアゲハの飼育に取り組み、平福地域の魅力アップを図り、交流人口の増を図りたい。地域住民や小学生、高校生とこの事業に取り組むことで自分の住んでいる地域にシビックプライドを持つことで将来、この地域に残ることが期待できる。また、都会へ出てふるさとを誇りにしてUターンのきっかけになることも期待できる。</p>				
内容	<p>この事業は法人だけで行う事業ではなく、今後も継続した取り組みとするために地域住民や地域づくり協議会、小学生、高校生と共に取り組んだ。プロジェクトにより、企画し、町中の空き地にジャコウアゲハの幼虫を育てるためのウmanoszukusaを植える花壇をつくり苗を植栽する。近くの耕作放棄田を草刈、バックホーの夜掘り起こし、トラクターによる耕耘を行い、吸蜜植物のサンジャクバーベナ100本を植える。これにより、幼虫、サナギ、成虫の姿を見ることができて町中でジャコウアゲハの舞う姿が見られた。約300匹の羽化に成功。町中にもサンジャクバーベナを育てて戴く為にプランターを配布した。</p>				
事業の効果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域住民や地域づくり協議会と協働で行うことにより、地域内の関心が高まりました。</li> <li>2. 佐用高校生、佐用小学生、地域づくり協議会、地域住民によるサンジャクバーベナの植栽を行いました。ジャコウアゲハの生態の講習を行うことで理解が深まりました。</li> <li>3. 地域住民や平福保育園がサンジャクバーベナ植栽地に来てジャコウアゲハの飛来を見に来られました。</li> <li>4. 観光客もサンジャクバーベナの紫の花を見るために川端風景と共に楽しみました。</li> <li>5. 地域の関心もあり、地域づくり協議会が農地の掘削、耕耘の協力を行い、佐用高校は草刈りを行いました。消防団の散水協力を得ることができました。</li> <li>6. 佐用高校、佐用小学校の協力により、成果を写真展として開催しました。</li> </ol>				
事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	5月1日	平福地域	植栽予定地の農地の使用について地域づくり協議会と話した。無償使用で了承を得る。	3人	2人
	5月11日	平福地域	企画会議の開催、NPO 法人ほっとネット373、平福地域づくり協議会、地域住民で事業全体計画について協議した。	5人	2人
	5月13日	平福地域農地	佐用高校生による、サンジャクバーベナ植付地の草刈を行う。	30人	1人
5月20日	平福農地	バックホーによる農地の掘り起こし。草の根や弦の掘り起こしを行う。	6人	2人	

5月23日	平福農地	バックホーによる他の掘削の後、トラクターによる耕耘作業を行う。	5人	2人
5月25日	平福農地	耕運機による畝づくり、施肥、ビニールマルチ張を行う。	5人	2人
6月1日	平福農地	佐用高校生、地域づくり協議会、NPO法人ほっとネット373によるサンジャクバーベナ100本、フジバカマ200本の植付	15人	3人
6月2日	平福農地	鹿の被害により、捕植20本、防獣ネット張り200m	3人	1人
6月3日	西木ファーム	ウマノスズクサ用花壇着手	4人	3人
7月5日	平福農地	佐用小学校によるサンジャクバーベナ20本の植付。平福駅でジャコウアゲハとアサギマダラの学習会を行う。	35人	2人
8月1日	西木ファーム	神戸大学教授の竹田先生を招いてジャコウアゲハ、アサギマダラ、昆虫食について講演会を開く。	20人	8人
8月10日	平福空き地	西木ファームの花壇完成。ウマノスズクサ32本植栽。	4人	3人
11月15日～19日	佐用高校	佐用高校でジャコウアゲハとアサギマダラの写真展	生徒	2人
12月1日～12月10日	佐用小学校	佐用小学校でジャコウアゲハとアサギマダラの写真展	生徒と父兄	2人
12月11日～12月19日	平福地域写真展エトランゼ	平福の街道沿いで写真展を行う	地域住民及び観光者	3人

協働の相手方	平福地域づくり協議会（植付地の掘り起こし、トラクターで耕耘） 佐用まちづくり塾（三尺バーベナ、フジバカマの植付参加） 佐用高校（植付地の草刈、三尺バーベナとフジバカマの植付） 佐用小学校（授業でアサギマダラを生かした町づくりに取り組む。三尺バーベナの植付）
今後の展望	今回の事業により平福地域で蝶に関する関心が高まり、ジャコウアゲハやアサギマダラの吸蜜植物を希望される住民があるため、次年度以降も苗の配布を平福を中心に町内や近隣市町に広める活動を行います。 佐用高校と協働で西播磨天文台公園に吸蜜植物の植栽を令和4年度に行います。虫のめぐみ社ではオオムラサキの飼育をされているので将来はオオムラサキの保護にも取り組みたい。



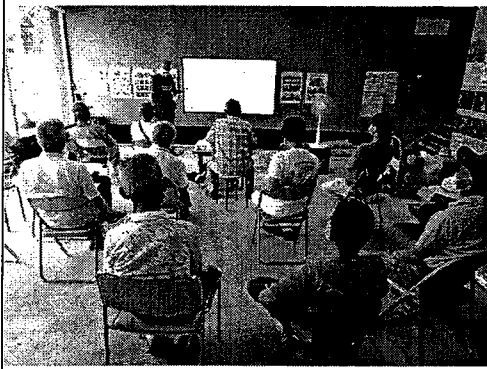
5.13 佐用高校による草刈り



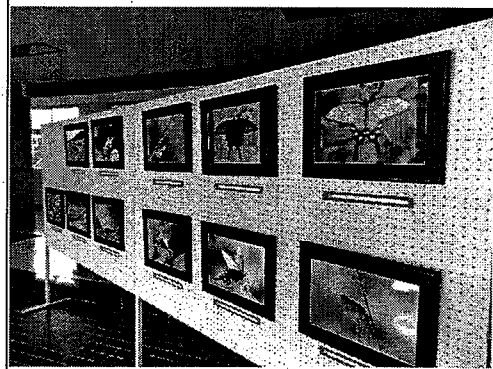
7.05 佐用小学校植付



8.01 ジャコウアゲハ学習会



11.15 佐用高校写真展



# うね地区まちおこし隊

## うね地区魅力発信事業

所在：赤穂市

代表：森田 博義

地域：赤穂市有年地区（有年中学校区）

<p>目的</p>	<p>有年地区は赤穂市の北部に位置し東西に細長い地域であり、その中央を清流千種川が南北に流れており、四方は山に囲まれた穏やかな田園地帯である。人口は年々減少し、市内の約5.8%である。</p> <p>人口の減少に伴って空き家も増えつつあり店舗や病院も無く隣接市町の店舗や医療機関に依存しているのが現状である。少子高齢化により地域に活力や地域が持っている魅力が徐々に失われ、地域全体が消極化している。</p> <p>また、地域の伝統行事、出会い、仕事等の継続が困難になってきた。</p> <p>この現状を解決するため、地域の良さや宝物を再発見し、更には新たな魅力を創造し、SNS等インターネットで有年内外に発信し、有年地区の良さを伝え、有年地区に足を運んでもらい、有年の地に定住してもらうことを期待したい。</p>
<p>内容</p>	<p>① 7月31日 花づくり環境創造（ヒガンバナ）          地元学校園に参加を呼びかけ、さらには、東有年・はりま台自治会の方々にもご協力いただき、午前には有年原田中遺跡、午後には沖田遺跡歴史公園に、ヒガンバナ（黄色と白色）の球根数百を植え付けました。</p> <p>② 10月31日 ありなしバザールの開催          陶芸などの手作り品の作家や農産加工物、更にはキッチンカーなど数十店が有年原田中遺跡及び原小学校周辺に出店。遺跡公園では音楽イベント。有年考古館などの会場を回るスタンプラリーを開催しました。当日は、他府県を含め約700名の来場者がありました。</p> <p>③ 11月19日 花づくり環境創造（ハーブ）          有年牟礼地区の水田ののり面にハーブを植え付けました。今年も地元中学校からはトライやる活動の一環として協力も頂きました。</p> <p>④ 1月22日 先進事例研究          兵庫県立大学環境人間学部地域創造機構部の内平教授をお招きし、まちづくりの基本的な考え方や集落の教科書（ルールづくり）について学びました。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>花づくり環境創造とありなしバザールの開催により、有年地区内外から私たちの活動に関心が寄せられ、実際に多くの方が、事前準備や植え付けに参加くださり、更に、イベントにも足を運んでくれる等、今迄にない住民の活気と人々の温もり、地域全体の盛り上がりを感じました。</p> <p>これら有年地区の様子をSNS等インターネットで全国に発信することにより、移住のお問い合わせもいただくようになりました。</p> <p>兵庫県立大学の内平教授からのアドバイスを基に作成したスキームが少しずつですが機能し始め、来年度以降に繋がる結果となりました。</p>

事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	7/20	有年東部農村多目的 共同利用施設	市長との意見交換会		10
	7/31	有年原田中遺跡・沖田 遺跡歴史公園	ヒガンバナの植栽	50	8
	10/31	有年原田中遺跡・原小 学校・有年考古館	ありなしバザールの開催	700	15
	11/19	有年牟礼地内	ハーブの植栽	20	5
	1/22	有年東部農村多目的 共同利用施設	先進事例研究		10

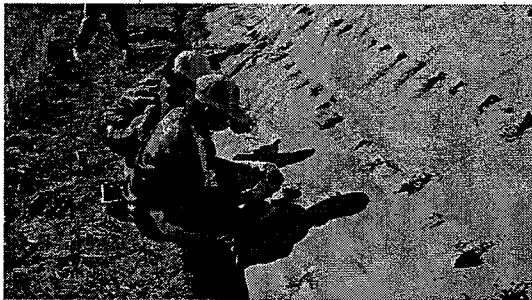
7/31 ヒガンバナ植え付け



10/31 ありなしバザール



11/19 ハーブ植え付け



1/22 先進事例研究



協働の相手方	赤穂市 兵庫県立大学
今後の展望	クラウドファンディングの実施 花を利用した特産品の創出 移住・定住の共同PR活動 理論に基づいた戦略的活動

# 上高谷 喜楽会

## 上高谷くつろぎの縁側

所在：赤穂市

代表：岩里 さち子

地域：赤穂市坂越上高谷地区 118 世帯 人口：284 名

<p>目的</p>	<p>赤穂市坂越上高谷地区もご多分にもれず、全地区人口 284 名のうち 65 歳以上の人の占める割合は 43.1%に達しています、そこで、住民の皆さんが安心・安全に暮らせるまちにしていくなために、全員参加のまちづくりに挑むことにしました。</p>
<p>内容</p>	<p>赤穂市坂越上高谷地区の現状を踏まえ、上高谷自治会・老人会（第四宝珠会）・子供会・上高谷喜楽会がより密な協働体制を築き、次世代の子どもたちには輝く未来を（地元の伝統文化・歴史の学習会の実施）、高齢者には安心・安全（防災避難訓練の実施）また、健康に暮らせるように（百歳体操の実施／毎週 1 回）に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早かごセミナー開催「防災・減災について考えよう」（6/26）</li> <li>・七夕まつりの準備（7/1）</li> <li>・上高谷地区住民全員参加の水害を想定しての避難訓練実施（7/10）</li> <li>・高瀬舟まつり試し川下り 本番に備えて安全に子供たちが高瀬舟体験ができるよう確認した。（7/23）</li> <li>・高齢者を対象とした健康体操（8/5）</li> <li>・高瀬舟まつり東有年の大波止より、上高谷高瀬舟船着き場までをラフティングボートにて高瀬舟試乗体験。東有年子供会と合同にて花火大会を行う。（8/8）</li> <li>・避難時に入用なものを入れる小物入れ（防災に役立つポーチ）を作る。（10/14）</li> <li>・災害時に簡単に作れる非常食をつくる。（11/4）</li> <li>・お正月用のしめ縄をクラフトバンドで製作する。（12/9）</li> <li>・身体の柔軟性をえるためにアーユルヨガでストレッチを行う（1/13）</li> <li>・身体の筋力低下を防ぐために毎週月曜日に百歳体操を実施した。コロナ感染症のためにお休みした時もある。最終日 2 月 21 日</li> </ul>
<p>事業の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域活動の参加率が向上した。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・集会所、児童公園の清掃参加率（月 1 回／班毎）： 80% から 90%</li> <li>・地域の清掃の参加率（年 2 回）：                 <ul style="list-style-type: none"> <li>9 月 26 日（日）生島清掃 118 世帯 80 人が参加（子供会全員参加）</li> <li>11 月 6 日（土）118 世帯 145 人が参加（子供会全員参加）</li> </ul> </li> <li>・百歳体操の参加率：平均 15 名（男性：3 名、女性：12 名）</li> <li>・高瀬舟の川下り体験：子供会全員参加（子供：15 名、保護者；15 名、自治会役員：全員参加（14 名）参加率：100%</li> </ul> </li> <li>●地区内で行った諸行事の参加率が全般にわたりアップして、より強固な協働体制が進んだ。</li> </ul>

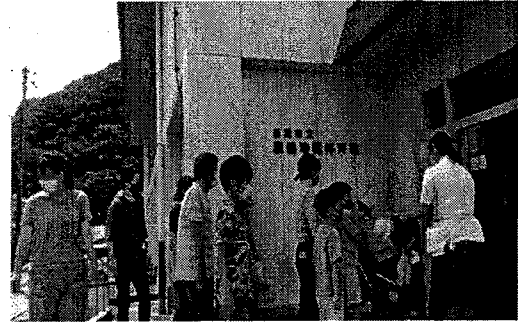
事業経過	月 日	場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	6月26日	集会所	早やかごセミナー	25名	3名
	7月1日		七夕飾り作成	19名	7名
	7月10日		避難訓練を実施	195名	20名
	7月23日		高瀬舟まつり試し川下り	10名	8名
	8月5日	集会所	健康体操	19名	7名
	8月8日	東有年の大波止より、上高谷高瀬舟船着場	高瀬舟まつり (7:00~14:00) ラフティングボートにて高瀬舟試乗体験をする。	23名	48名
		上高谷児童公園	(19:00~20:30) 東有年子供会と合同にて花火大会を行う。	15名	20名
	10月14日		防災に役立つポーチ作り	15名	1名
	11月4日		災害時に簡単に作れる非常食をつくる。	17名	1名
	12月9日		クラフトバンドでしめ縄づくり	10名	1名
	1月13日		ア－ユルヨガでストレッチ	8名	1名
	毎週月曜日	集会所	8:30~9:00 百歳体操	毎回 10~15名	

協働の相手方	<p>上高谷自治会 所帯数：118 住民人口：284名 自治会役員：15名          老人会（第四宝珠会） 会員数：35名          上高谷子供会 児童数：15名</p>
今後の展望	<p>次世代の子どもたちに輝く未来を提供するために地域に住む、子どもたちから高齢者までのあらゆる世代の方々が世代間ギャップや考え方の違いを認識し、社会情勢の変化を柔軟に受け入れ、互いの意見・立場を尊重しながら、魅力ある安心して暮らせるまちづくりに励みたい、住民の大多数の方が参加していただいた清掃活動、防災避難訓練を第一歩とする有意義な1年となった。</p>

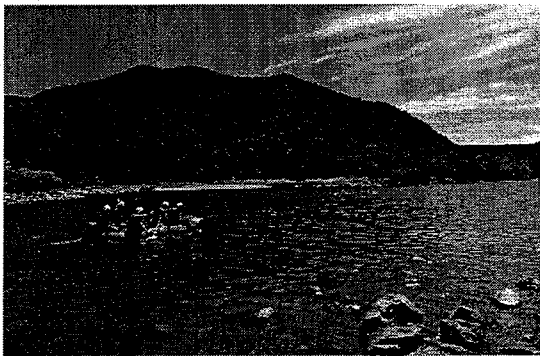
令和3年7月10日 防災避難訓練



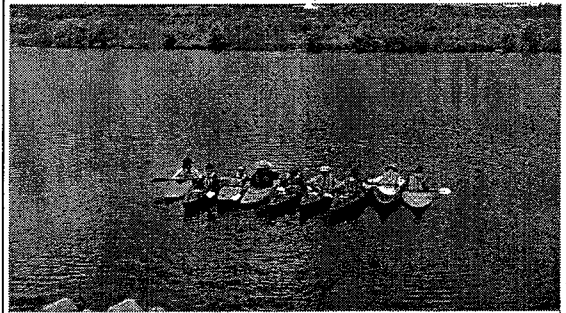
令和3年7月10日 防災避難訓練



令和3年8月8日 高瀬舟まつり



令和3年8月8日 高瀬舟まつり



# リタリス令和

## ヒガンバナで新宮を飾ろうプロジェクト

所在：たつの市新宮町

代表：谷口 栄子

地域：たつの市新宮町（主に北新町）

目的	<p>たつの市新宮町の中心地に約5haの面積で広がる史跡「新宮宮内遺跡」を活性化することは新宮町の賑わいづくりの核の一つとなる。遺跡内に2年前から植栽を続けているヒガンバナを活用した北新町自治会主催のイベント実施等の活動を通して、地域団体の世代間交流を行い、地域ネットワーク・コミュニティの強化を図るとともに、新宮宮内遺跡を核とした交流人口を創出することで地域の活性化を図る。加えて、女性が地域の中で“まちづくり”に積極的に参画し、女性主体のリタリス令和ならではの視点を生かした地域活性化プログラムをコロナ対策を行った上で実施する。コロナ禍においても心豊かに生活し、心身ともに健康に育つ一助として本プロジェクトを実施する。</p>				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リタリス令和が北新町自治会やたつの市歴史文化財課と協働して史跡新宮宮内遺跡の活用を行った。</li> <li>・その手段の一つとしてヒガンバナを植栽し（春から夏）、ヒガンバナで史跡新宮宮内遺跡を彩るプロジェクトを実行した。</li> </ul> <p>9月18日～10月3日（土日祝のみ）にひがな花まつり期間を設け、期間中の9月26日には本プロジェクトのメインである彼岸花祭りを開催することで、史跡への集客、関心を集めた。（期間中約1200名来場）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まつり当日はコンサート、ヒガンバナ撮影会、ヒガンバナ栽培ワークショップ等、楽しんでいただける企画を実施した。</li> <li>※多田周子さんによる歌唱</li> <li>※横山直樹さん（横山園芸）による青空園芸教室</li> </ul>				
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宮宮内遺跡の地名度UP、活性化</li> <li>・たつの市の交流人口の増加</li> <li>・地域の住民の交流の場づくり、世代間の交流</li> <li>・女性が地域づくりに参画するきっかけづくり</li> <li>・花の溢れる地域づくり（コロナ禍における癒し効果）</li> <li>・将来のための新宮町の名物づくり</li> </ul>				
事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	6月16日	新宮支所	会議（リタリス・北新町自治会）	15名	7名
	6月21日	新宮宮内遺跡	花壇づくり	20名	10名
	6月27日	市野保	赤球根採取・植え込み	40名	10名
	7月18日	新宮宮内遺跡	カラー球根植え込み	30名	10名
	7月27日	新宮宮内遺跡	カラー球根植え込み	30名	10名
7月29日	新宮支所	会議（リタリス・市文化財課）	8名	3名	

8月9日	新宮宮内遺跡	草刈り	10名	2名
8月28日	新宮支所	ひがん花まつり実行委員会会議	15名	7名
9月4日	新宮宮内遺跡	草引き	17名	10名
9月18日 ～26日	新宮宮内遺跡	ひがん花まつり期間	約1200名	10名
9月26日	新宮宮内遺跡	ひがん花まつり当日・反省会	約700名	10名
10月10日	新宮宮内遺跡	花壇整備・肥料入れ・反省会	13名	7名
2月6日	新宮宮内遺跡	花壇整備	8名	5名

6月21日 花壇づくり



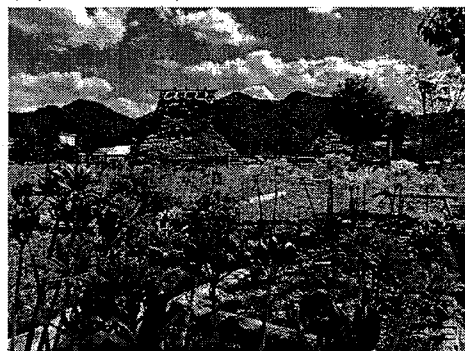
9月26日 ひがん花まつり当日  
(多田周子さんコンサート)



9月26日 ひがん花まつり当日  
(横山直樹さんの園芸教室)



9月中旬 (新宮宮内遺跡に咲く彼岸花)



協働の相手方	北新町自治会
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、彼岸花の球根を植えて増やし、日本一の色・種類が咲く「彼岸花の里」にしたい。そして、たつの市・新宮町・新宮宮内遺跡をPRしたい。</li> <li>・故郷の名物・誇りになるように取り組み、毎年「ひがん花まつり」を盛大にしていきたい。</li> </ul>



## 播州赤穂の塩・ジオ研究会

### 塩・塩廻船のまち播州赤穂」深堀ジオ観光プログラム開発

所在：赤穂市

代表：門田 守弘

地域：西播磨全域・赤穂市

目的	<p>「塩・塩廻船のまち播州赤穂」の深堀型の観光プログラム開発 日本第一の塩の産地、その塩（差塩）を江戸に運んだ塩廻船のまちを観光客の皆さまがわかりやすく体験できるプログラムを作成することで、全国的にも世界的にも赤穂の魅力発信や知名度向上を図る。</p>
内容	<p>地形・地質をテーマにした体験型ツアープログラムの開発実績を持つ学識経験者 にアドバイザーとして、日本遺産「塩のまち播州赤穂・塩廻船」と赤穂の地形・地質 や自然との関係をアドバイザーとともに現地調査をし、現地視察調査で抽出された 見どころについて、ドローン等を活用して画像編集をしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播州赤穂塩・ジオ研究会打合せ会議（6/26）</li> <li>・播州赤穂塩・ジオ研究会打合せ会議 地球史研究所訪問について（7/22）</li> <li>・岡山県赤磐市の地球史研究所で事業企画の説明と赤穂の状況説明と意見交換会 を行いました。（8/22）</li> <li>・第1回現地視察調査スケジュールについての打ち合わせ会議（9/4）</li> <li>・赤穂市坂越浦・御崎・丸山・尾崎塩田・水尾跡・唐船山など第1回現地視察を行 いました。（9/25）</li> <li>・高雄公民館、赤穂市福浦 古池塩田跡・塩釜神社・備前福河駅・高雄切山隧道・ 高雄周世神護寺・御蔵山など第2回現地視察を行いました。（11/3）</li> <li>・第3回現地視察 宍粟市千種町の「たたら」の学習会館にて歴史講座・たた らの里展示館、鉄穴流し場の見学（11/21）</li> <li>・播州赤穂塩・ジオ研究会打合せ会議で今年度事業のまとめをしました。（12/11、 1/9、1/29）</li> <li>・赤穂市役所で竹村公太郎先生へ『播州赤穂の塩とジオの10の謎解き』について プレゼンテーションを行いました（2/12）</li> <li>・竹村公太郎先生に唐船山、塩の国、坂越のまち並み、大避神社など現地視察して 頂きました（2/13）</li> </ul>
事業の 効果	<p>日本遺産になった「日本第一の塩の産したまち播州赤穂」と塩を運んだ「坂越の 塩廻船」がなぜ日本第一の塩の産地に成り得たのかが、地形・地質などの観点から 検証した結果、「ジオ博士と歩く」播州赤穂の塩とジオの10の謎解き」に行きつき ました。</p> <p>代表的な謎解き事例として、塩田の砂（原形は花崗緑閃岩）は、宍粟市千種町た たらの里から鉄穴流しで流出した膨大な量の土砂が、赤穂市千種川の河口に広大な 遠浅の砂浜を形成したことがわかりました。</p> <p>副次効果として、人気番組 NHK「プラタモリ」への出演や脚本を手掛けるなど、 地形歴史研究者として幅広く活動させている日本水フォーラム事務局長 竹村公太 郎先生にお会いして、「播州赤穂の塩とジオの10の謎解き」についてプレゼンテー ションと赤穂塩の国、北前船寄港地坂越浦を視察して頂きました、また、日本放送 協会へのプラタモリの誘致についての陳情書に竹村公太郎先生のお名前を使わせて 頂くことになりました。</p>

事業経過	期日	場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	6月26日	加里屋まちづくり会館	打合せ会議		9名
	7月22日	加里屋まちづくり会館	打合せ会議 地球史研究所訪問について		9名
	8月22日	地球史研究所 (岡山県赤磐市)	事業企画の説明と赤穂の状況説明と意見交換会	2名	9名
	9月4日	加里屋まちづくり会館	打合せ会議 第1回現地視察調査スケジュールについて		9名
	9月25日	赤穂市坂越浦・御崎・丸山・尾崎塩田・水尾跡・唐船山など	第1回現地視察 (9:30~16:30)	2名	9名
	11月3日	・高雄公民館 ・赤穂市福浦古池塩田跡・塩釜神社・備前福河駅・高雄切山隧道・高雄周世神護寺・御蔵山など	第2回現地視察 (8:15~16:30)	2名	9名
	11月21日	宍粟市千種町 たたらの里	第3回現地視察 (8:15~16:30) たたらの里学習会館にて歴史講座・たたらの里展示館、鉄穴流し場の見学	8名	1名
	12月11日	赤穂市市民会館	打合せ会議 (13:00~15:30) 今年度事業のまとめ		9名
	1月9日	赤穂市市民会館	打合せ会議 (13:00~15:30) 今年度事業のまとめ		9名
1月29日	赤穂市市民会館	打合せ会議 (13:00~15:30) 今年度事業のまとめ		9名	
2月12日	赤穂市役所 2F 204号室	プレゼンテーション (15:00~16:30)	5名	9名	
2月13日	唐船山、塩の国、坂越のまち並み、大避神社など	現地視察 (9:15~12:00)	1名	7名	
2月27日	赤穂市市民会館	打合せ会議 (16:30~17:30) 今年度事業のまとめ		9名	

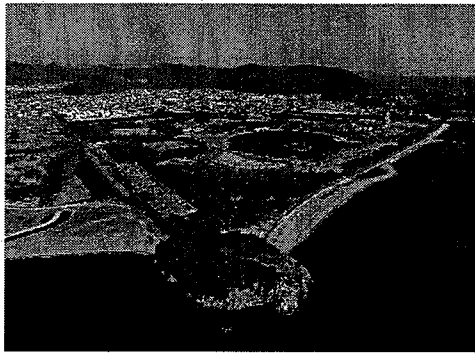
9月25日 第1回現地視察



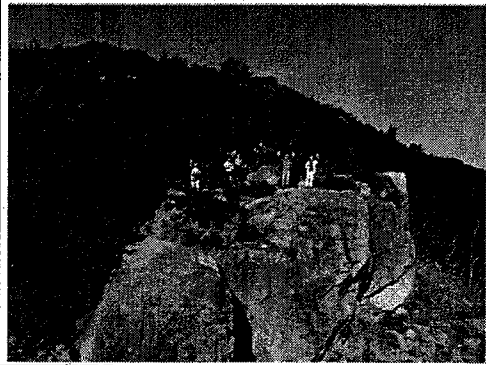
9月25日 第1回現地視察



9月25日 第1回現地視察



11月3日 第2回現地視察



協働の相手方	<p>NPO 法人地球年代学ネットワーク</p> <p>赤穂市役所 観光課</p>
今後の展望	<p>「塩・塩廻船のまち播州赤穂」の深堀型の観光プログラム開発のために、さらなる深堀に挑みます、地形・地質に新たに気候加えたかたちで進めていきたい。</p> <p>また、いままでに撮影した動画等を編集して、観光客の皆さまがわかりやすく見て体験できるプログラムヲ作成する、プラタモリをお迎えする広報活動も併せて行ない、全国的にも世界的にも赤穂の魅力発信や知名度向上を図る。</p>

# 一般社団法人相生青年会議所

## みんなで作ろう！あいおいふるさとカルタ

所在：相生市

代表：神谷 和典

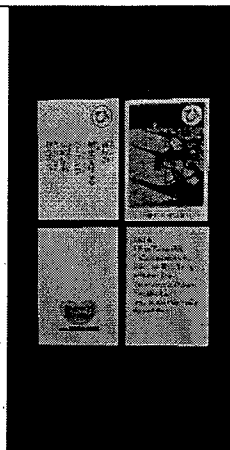
地域：相生市

<p>目的</p>	<p>相生市に生まれ育った子どもたちに、市内にたくさんある名所や特産品、歴史等を知ってもらい郷土愛を育むきっかけになるよう、楽しく遊びながら学べるカルタを作成する。</p> <p>沢山の子供たちが楽しく自身のまちを知り、学べるものは何かを考え、相生市全体の魅力や歴史・文化の詰まった「ふるさとカルタ」を、地域の子供たちと一緒に作り、学び、子供たち自身が制作に関わったカルタとして学校へ教材として配布。これによって郷土愛を育み、若者がかえってくるまちになることを目指します。</p>				
<p>内容</p>	<p>相生青年会議所において、各小学校区内にある相生市の歴史、名所、文化、特産品などをキーワードとした取り札の写真を作成。それを元に各小学校3年生の社会科の授業の中で読み札を作成してもらい、集まった読み札を当所において精査した。</p> <p>また、取り札の裏には解説文をつけて、歴史、文化などを写真とともに学べるようにした。カルタは、今後の授業にも活かしてもらえるよう、各小学校に寄贈した。</p>				
<p>事業の効果</p>	<p>相生市教育委員会のご支援により、学校長、市内小学校社会科部会、各学校3年生担任の先生、3年生児童とJCが連携し、学校教育と郷土愛の育み等色々な観点から形に残る「カルタ」が作成できた。</p> <p>先生方にも評判がよく、児童たちは他校の読み札にも興味を持ち、相生市全体に興味を湧いたのを感じた。</p> <p>また、教育委員会にカルタの寄贈をした際、各小学校からの評判がよいことを伺い、感謝状を頂いた。</p>				
<p>事業経過</p>	<p>月 日</p>	<p>場 所</p>	<p>内 容</p>	<p>参加者数</p>	<p>スタッフ数</p>
<p>4/1</p>	<p>相生商工会議所研修室</p>	<p>事業計画の上程</p>	<p>7名</p>		
<p>4/5</p>	<p>教育委員会</p>	<p>教育委員会へ協力依頼</p>	<p>4名</p>		
<p>4/8</p>	<p>那波小学校</p>	<p>岩田校長（社会科部会長）と打ち合わせ</p>	<p>2名</p>		
<p>4/9</p>	<p>教育委員会</p>	<p>小学校長会にて事業の協力依頼</p>	<p>2名</p>		
<p>4/21</p>	<p>生きがい交流センター</p>	<p>委員会にて取り札（写真）、読み札（キーワード）等の決定</p>	<p>5名</p>		
<p>5/12</p>	<p>西播磨県民局</p>	<p>地域づくり活動応援事業助成金申込</p>			

5/13	生きがい交流センター	第1回全体説明会(事業全般共有)	10名	
5/21		委員会にて役割分担等決定	5名	
5/22	JC事務所	小学校へ読み札作成依頼文、依頼DVDの作成	5名	
5/24	市内小学校	各学校へ読み札作成依頼/キーワード、写真を送付	5名	
6/1~30	市内小学校	社会科の授業で読み札作成(3年生)	222名	
7/1	相生商工会議所研修室	第2回全体会議(集めた写真の確認、解説文の検討)	10名	
7/5		各小学校より読み札受け取り		
7/6		読み札のデータ化	5名	
7/7	JC事務所	読み札の確認	5名	
		取り札(写真、解説文)データ化校正	5名	
8/5	相生商工会議所研修室	第3回全体会議(読み札/表・裏、取り札/表・裏、箱デザインの決定)	10名	
8/6		大石天狗堂(カルタ制作会社)にデータの送付		
8/11	JC事務所	大石天狗堂からのカルタの内容校正①(解説文、読み札、写真)	2名	
8/19	JC事務所	カルタの内容校正②(解説文、取り札)	2名	
8/25	JC事務所	カルタの内容校正③(解説文、取り札)	2名	
8/30	JC事務所	カルタの内容校正④(解説文、取り札)	2名	
8/31	JC事務所	カルタの内容最終校正	2名	

	9/24		カルタ到着（完成）		
	9/30	市内小学校	各小学校へカルタ寄贈		
	10/18	相生市教育委員会	教育長（教育委員会）にカルタ寄贈		

（カルタ現物） 9/24



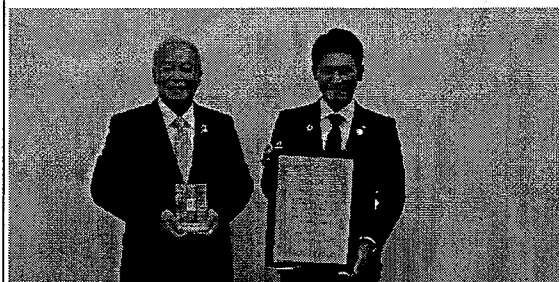
（カルタ贈呈/小学校） 9/30



（授業/カルタ取り） 9/30



（カルタ贈呈/教育委員会） 10/18



協働の相手方	相生市教育委員会 相生市小学校社会科部会 相生市内小学校3年生担任 相生市内小学校3年生児童 （写真提供）相生市観光協会・創造空間・相生映像アーカイブス
今後の展望	社会科の授業で「わたしたちの相生」について学ぶとき、「あいおいふるさとカルタ」を次年度からもその教材の一つとして使用し、楽しみながら学んでもらえることを期待する。 また、すべてにふりがなをつけているので、低学年でも使ってもらいたい。

# 子どもの遊び場を考える会赤とんぼ

## みんなが主役！子どものための巨大らくがき大会

所在：たつの市龍野町

代表：位飼 秀介

地域：西播磨全域と姫路市、その他

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目的</p>	<p><b>〔地域の現状〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●若者のふるさと意識が希薄になっており、地域への愛情とともに、西播磨のビジョンである「光と水と緑でつなぐ-元気・西播磨-」を知っている人も少ない。</li> <li>●都市部への就職による若者の流出が進み、人口減少がみられる。</li> <li>●コロナ禍の影響により、子どもの外遊びや自然体験が減少している。</li> <li>●子どもたちの異年齢交流、地域の大人と関わる機会が減少している。</li> </ul> <p><b>〔地域の課題〕</b></p> <p>幼児期に感情を開放し戸外で伸び伸びと遊ぶことで、子どもの好奇心や探求心が生まれ、その後の主体性・積極性、豊かな感性が育っていく。現代の子どもはそういった経験が昔よりも少なくなっているため、高校生・大学生・20代社会人は大人の指示を待ち行動する受動的な傾向にある。それと同時に「ふるさと意識」が薄れており、地域社会の希薄化につながっており、地元の方でも地域のビジョンの認知が低い。</p> <p><b>〔解決方法〕</b></p> <p>「光と水と緑でつなぐ-元気・西播磨-」という西播磨のビジョンをテーマにしたイベントを高校生・大学生・20代から30代社会人が主体となり事業の企画・実施をたつの市で行うことで、若者の自主性を育て自己肯定感や「ふるさと意識」がより強いものになると考えている。</p> <p>また、子どもたちにとっては、巨大なキャンバスや自然のなかで遊ぶことが貴重な経験となる。このイベントを通じて得られる幼少期の経験は子どもたちにとって感受性・創造性・社会性へと影響を及ぼすと考えている。</p> <p>さらに、今回のような大きなイベントを継続的に実施することで、地域住民をはじめとして多くの人が集まり地域・世代を超えた交流が生まれており、この事業を通じて「自分の町」を好きになり興味をもてるような、地域の活性化につながる事業を目指している。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">内容</p>	<p>従来までの光・水・緑をテーマにしたそれぞれ催しの内容を充実させることで、イベント全体で西播磨のビジョンを表現することができ、参加者にとっても、全身で様々な刺激を楽しめる体験ができるように工夫をこらした。</p> <p>前回までの反省点として、西播磨のビジョンのみを表現していたが、参加者にとってはそれを理解しにくいという欠点があった。そのため、今回はビジョンを具体的なもので表現をすることで、理解しやすい環境を作った。それに伴い今回の巨大キャンバスでは、キャンバスの上に「古城」や「城下町」を意識したモニュメントを多数設置することで、落書きを通して参加者に西播磨の魅力を今まで以上に体感できるような工夫を盛り込んだ。その他も同様に西播磨の魅力を具体的に盛り込むことで、イベント全体としてもその魅力を体感できる環境を整えた。</p> <p>さらに今回は新型コロナウイルスの感染防止の観点から、県のマニュアルをもとにして、アルコール除菌液の設置や検温などの安全管理のために、大規模な受付エリアを別途設置した。従来のプールなどの水遊び体験は、うちわやハンガーを加工したシャボン玉遊びに変更し、感染のリスクの軽減を図った。</p> <p>さらに前回の2,500人の参加を踏まえ、参加人数を制限する対策として開催場所をこれまでの遊び場(プレーパーク赤とんぼ)で利用しなれた西播磨文化会館に変更</p>

	<p>して実施した。西播磨文化会館の収容人数 1,000 人に対して、その 50%の 500 人（車 150 台分）を会場に常時滞在できる人数の上限とし、駐車場で参加者をコントロールを行うことで感染対策を行った。加えてイベントの宣伝活動においては従来の SNS での発信は行わず、チラシでの広報に限定した。配布対象はたつの市、上郡町、佐用町等の西播磨地域にある幼稚園、保育園所、こども園、小学校低学年とし、対象者を絞ることで人数の制限を図った。</p> <p>&lt;実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●巨大キャンバス…太陽の下で、7色(虹)の絵の具で巨大キャンバスに落書きをした。西播磨が誇る伝統的建築物をモチーフとした落書きのできるモニュメントを多数配置。</li> <li>●通常遊び場…シャボン玉やフラフープ、スラックラインなどの遊び場を設置。 また参加者が日陰で憩えるよう、林の中に休息所を設けた。</li> </ul> <p>受付での記入者 823 名の内訳 参加者状況：たつの市 555 名 佐用町 39 名 宍粟市 57 名 太子町 10 名 赤穂市 13 名 相生市 15 名 上郡町 9 名 姫路市 82 名 その他 43 名</p> <p>※500 人（車 150 台分）を会場に常時滞在できる人数の上限と定めたため、途中の入退出を合わせて合計数は 823 人で報告。</p>																																																		
事業の効果	<p>【事業の効果】 イベント参加者は様々な体験活動を通して満足感が得られている様子が見受けられた。実際に Instagram や Facebook 等で、イベント参加者の投稿が多数見られ「コロナでなかなか外出がしにくい中、久々に外遊びができた！」「今後も続けてほしい」という声があがっていた。</p> <p>また、運営スタッフ・リーダーへのアンケートを見る限り、大イベントを企画・運営したことで達成感や成功体験が得られ、地域への愛着や団体の結束力が強固なものになったと感じている。</p> <p>【次年度以降の事業の展開見込み】 年に一度行う事業として定着させる。子どもやボランティアイベント地域活動に関心の高い若者を、新たに巻き込み地域づくりに貢献できる場として継続させていく。</p>																																																		
事業経過	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>場 所</th> <th>内 容</th> <th>参加者数</th> <th>スタッフ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月17日</td> <td>たつの市</td> <td>募集会議(PJスタッフ)</td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>4月24日</td> <td>〃</td> <td>企画概要作成会議</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>5月1日</td> <td>〃</td> <td>企画概要作成会議</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>5月15日</td> <td>〃</td> <td>企画概要作成会議、現地視察</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>5月22日</td> <td>〃</td> <td>運営会議、安全対策検討</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>5月26日</td> <td>〃</td> <td>プレゼン資料作成</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>6月5日</td> <td>〃</td> <td>プレゼン打ち合わせ</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>6月12日</td> <td>〃</td> <td>プレゼン発表練習</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>6月19日</td> <td>〃</td> <td></td> <td>5人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table>		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数	4月17日	たつの市	募集会議(PJスタッフ)	5人	5人	4月24日	〃	企画概要作成会議	〃	〃	5月1日	〃	企画概要作成会議	〃	〃	5月15日	〃	企画概要作成会議、現地視察	〃	〃	5月22日	〃	運営会議、安全対策検討	〃	〃	5月26日	〃	プレゼン資料作成	〃	〃	6月5日	〃	プレゼン打ち合わせ	〃	〃	6月12日	〃	プレゼン発表練習	8人	8人	6月19日	〃		5人	5人
	場 所	内 容	参加者数	スタッフ数																																															
4月17日	たつの市	募集会議(PJスタッフ)	5人	5人																																															
4月24日	〃	企画概要作成会議	〃	〃																																															
5月1日	〃	企画概要作成会議	〃	〃																																															
5月15日	〃	企画概要作成会議、現地視察	〃	〃																																															
5月22日	〃	運営会議、安全対策検討	〃	〃																																															
5月26日	〃	プレゼン資料作成	〃	〃																																															
6月5日	〃	プレゼン打ち合わせ	〃	〃																																															
6月12日	〃	プレゼン発表練習	8人	8人																																															
6月19日	〃		5人	5人																																															

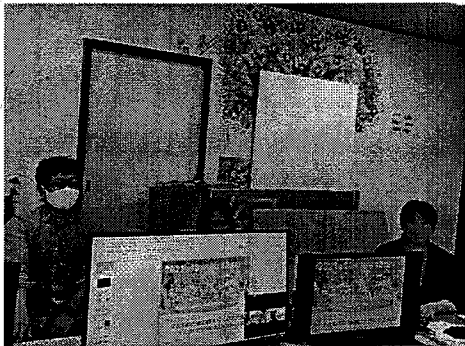


	6月26日	〃	運営会議、安全対策検討運営会議、安全対策検討、プレゼン練習	〃	〃
	7月3日	〃	テーマ別会議、プレゼン直前練習	11人	11人
	7月10日	〃	テーマ別会議	5人	5人
	7月17日	〃	テーマ別会議	〃	〃
	7月24日	〃	テーマ別会議	〃	〃
	7月31日	〃	テーマ別会議	〃	〃
		〃	テーマ別会議	〃	〃
	8月7日	〃	広報会議チラシ作成	〃	〃
	8月8日	〃	スタッフ向け全体説明会①	15人	15人
	8月14日	たつの市	運営資料作成	〃	〃
	8月21日	〃	運営会議、物品発注、広報チラシ修正	9人	9人
	8月28日	〃	運営会議、現地視察、物品の発注	7人	7人
	9月4日	〃	物品準備、事前準備	5人	5人
	9月11日	〃	物品準備、事前準備	11人	11人
	9月18日	〃	物品準備、事前準備、広報チラシ配布	7人	7人
	9月26日	〃	物品準備、事前準備	9人	9人
	10月2日	〃	物品準備、事前準備	12人	12人
	10月9日	西播磨文化会館	前日準備、荷物運搬	21人	21人
	10月10日	〃	イベント実施・片付け	883人	883人
	10月16日	たつの市	片付け・反省会実施	20人	20人
	10月17日	たつの市	反省会 (PJ スタッフ)	5人	5人

協働の相手方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーパック株式会社</li> <li>・株式会社龍野情報システム</li> <li>・株式会社サムライン</li> <li>・医療法人社団一葉会 佐用共立病院</li> <li>・たつの市教育委員会</li> <li>・上郡町教育委員会</li> <li>・佐用町教育委員会</li> <li>・宍粟市教育委員会</li> <li>・ぱたぱた Flap</li> <li>・西播磨文化会館</li> </ul>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イトメン株式会社</li> <li>・兵庫短期大学</li> <li>・神戸学院大学</li> <li>・兵庫県立龍野北高校</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の展望</p>	<p>今年度はコロナ禍でのイベントで人数制限や宣伝範囲の制限を課す中で、参加上限に達するまでの参加者があった。イベントも今回で4年目を終えて、このような状況下ではあるが回を追うごとに知名度も高まり、多くの方に認知され期待されるイベントになってきているのだと感じている。</p> <p>また、今後のコロナの終息を考えると、来年度の実施に向けては、コロナ禍以前と同様に、多くの『人手の確保』『資金・資材の調達』が必要になってくると考える。</p> <p>今年度がコロナの感染もなく無事故で終えられたように、来年度更に大きくなるであろうこのイベントをより入念に計画を立て、今年度の反省点を反映させながら次年度に繋げられるよう邁進していく。そして、西播磨のひとつの大きな夏のイベントとして、地域に根づいていければと考えている。</p>

6月26日 プレゼン練習風景



8月22日 城モニュメント作成風景



10月10日 検温風景 (受付エリア)



10月10日 集合写真



# 赤穂市地域活動連絡協議会

## 赤穂海浜公園魅力アップ作戦

### ～子育て支援事業の開催と情報誌発行

所在：赤穂市

代表：岩崎 由美子

地域：赤穂市

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤穂海浜公園の既存施設の有効活用や新たなに施設整備された遊具などの利用方法の提案や情報発信を行うことで、利用者が増え、西播磨の賑わいづくりができる。</li> <li>赤穂海浜公園は野外であることから、三密を避けることができるため子育て支援事業（ふれあい広場）を開設し、利用者が増えることで、赤穂海浜公園の認知度を上げる。また事業を行うことで賑わいができ、子ども・子育て家庭の様々な問題解決につながり、西播磨の子育てについて意識が高まる。公園をもっと気軽に多くの人に利用していただくため、公園の魅力をPRし情報誌の発行を行う。</li> <li>赤穂海浜公園に魅力、西播磨各市町の子育て支援の情報を収集し、その情報を行政、子育て支援団体、子育て中の人などに発信することによって、より一層、子育て支援活動が活発に行われる。</li> </ul>				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤穂海浜公園の既存施設の有効活用や新たなに施設整備された遊具などの利用方法の提案や情報発信を行う。赤穂海浜公園で子育て支援事業（ふれあい広場）を月一回開設。募集は、HP や SNS、西播磨の子育て支援施設で募集。コロナ対策を十分に取り、野外での遊びを行う。（赤穂市内で子育て事業を行っている松本先生に依頼）</li> <li>赤穂海浜公園の魅力をPRし、子育て支援できるよう子育て情報誌を発行赤穂海浜公園や、西播磨各市町の子育て支援の情報を収集し、情報誌を発行（SNSでも発信）その情報を行政、子育て支援団体、子育て中の人などに発信。各マスコミにプレスし、テレビ・ラジオなどに西播磨の取り組みを取り上げていただく。</li> </ul>				
事業の効果	<p>事業を通し、西播磨ならではの資源の魅力発信、情報発信の強化を戦略的に推進し、交流人口と観光消費額の拡大を図り、西播磨の賑わいづくりに貢献          [次年度以降の事業の展開見込み]          子育て支援事業の継続 SNS での赤穂海浜公園の情報発信</p>				
事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	8月27日	赤穂海浜公園	親子ふれあい事業 読み聞かせ工作	20	3
	9月28日	赤穂海浜公園	親子ふれあい事業 読み聞かせ工作	20	3
	10月26日	赤穂海浜公園	親子ふれあい事業 幼児体操	20	2
	12月12日	赤穂海浜公園	親子ふれあい事業 トランポリン	20	3

12月17日	赤穂海浜公園	親子ふれあい事業 英語でクリスマス	20	3
7月	赤穂海浜公園	撮影		5
2月		情報誌発行		

7月写真撮影



10月親子ふれあい事業幼児体操



12月親子ふれあい事業トランポリン



募集チラシ

**親子  
ふれあい遊び**

《講師》  
SLFランドランス 松本 おゆき

●開催日 : 11月12日(金)  
●時間 : 10:30~11:30  
●場所 : 赤穂海浜公園(赤穂広場)  
雨天時: 赤穂海浜公園管理事務所ロビー

●募集人数: 10組親子限定(未就園児)  
●申込期限: 11月5日(金) 【定員になり次第締め切り】  
●参加費 : 無料  
●申込み先: 赤穂海浜公園管理事務所  
(0791-45-0800)

●イベント内容  
トランポリンで遊ぼう

●主催: 赤穂市地域活動協議会  
西尾船地区地域づくり活動支援事業  
●協力: 赤穂海浜公園

協働の相手方	
今後の展望	今後も、子育て情報や海浜公園の情報など SNS 等で発信していきたい。

# 利神ふれあいキャンプ実行委員会

## 利神ふれあいキャンプ

所在：佐用郡佐用町

代表：庄 雅宏

地域：佐用町

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が、地域の自然や、文化、歴史を感じ、地域住民とふれあうことにより、地域の良さを知り、郷土愛を育む機会を提供すること。</li> <li>参加者に、地域の自然や、文化、歴史を感じてもらふことと、住民とのふれあいを重視すること。</li> </ul>				
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>利神城跡ガイドツアー：佐用山城ガイド協会の協力を得て、子ども達と利神城跡に登った</li> <li>グランピング体験：「グラミンカ佐用」の協力を得て、大自然の中で、グランピングを体験する。レクリエーションとして皆田和紙行燈づくり体験した</li> <li>川遊び：利神地域内の石井地区の川で、SUP ボート等を使用して川遊びを体験した</li> </ol>				
事業の効果	<p>参加した子どもたちは、それぞれの楽しみ方で、それぞれの思い出をたくさん作ってくれました。何十年先かはわかりませんが、子ども達が大人になり、どこに住んでいたとしても、利神ふれあいキャンプでの体験が故郷を想う大切な記憶になってくれると願っています。</p> <p>すぐに何か明確な結果がでることはありませんが、自身のルーツとしての故郷をより良く感じ、故郷を誇りに思うことができれば、地域の未来が明るくなり、新たな希望が生まれたといえます。</p>				
事業経過	日時	場所	内容	参加者数	スタッフ数
	R3/3/30	県民交流広場	第1回実行委員会		10
	R3/6/28	〃	地域協センター長説明会	4	2
	R3/7/9	ふれあい長谷	第2回実行委員会		8
	R3/7/10	〃	第3回実行委員会		8
	R3/7/17 ～ R3/7/18	利神城跡	利神城跡ハイキングツアー	38	21
		グラミンカ佐用	グランピング体験	38	21
			皆田和紙行燈づくり体験		
		川遊び体験	石井の川で SUP、ボート等	17	10
R3/9/15	WEB 会議	第4回実行委員会		2	

皆田和紙行燈づくり体験



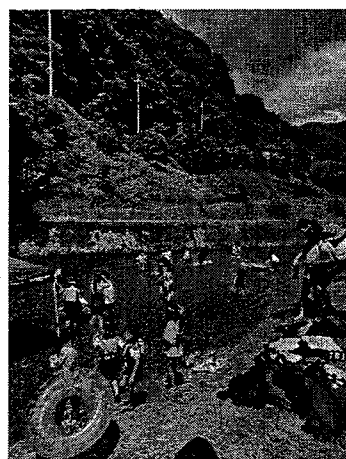
集合写真



グランミンカ



川遊び



協働の相手方	<p>佐用山城ガイド協会 会長 春名政男</p> <p>4地域づくり協議会 (平福・長谷・石井・海内)</p>
今後の展望	<p>参加者、関係者から反響が大きく大変好評でしたので、コロナ禍でもできる方法を模索して続けたいです。事業目的は不変ですが、内容はアップデートします。</p>

# 播州ストリートダンス協会

## 西播磨をNEWスポーツ（オリンピック新競技）で盛り上げよう計画

所在：姫路市

代表：神成 一志

地域：西播磨地域

<p>目的</p>	<p>西播磨地域においてNEWスポーツ（オリンピック新競技）の認知度が低い。NEWスポーツを通しての地域交流、異年齢交流というものがない。NEWスポーツというツールで地域、異年齢のコミュニケーションづくりやテレビでは見たことはあるが身近にないNEWスポーツ（オリンピック新競技）を体験し、以前より取り組んでいるダンススポーツであらゆるスポーツに必要なリズム感を身に着ける。</p>
<p>内容</p>	<p>2021年はオリンピックイヤーということで、オリンピック新種目競技などNEWスポーツの体験会や練習会を地域交流、異年齢交流と他地域へ西播磨のPRを考えたうえで開催しました。</p> <p>子供会、スポーツ団体、学校でチラシを配布し広く参加者を募集しました。西播磨地域の幼稚園～高校で約30,000枚の配布をしました。</p> <p><b>NEWスポーツ（オリンピック新種目）</b>          スケートボード、BMX自転車（宍粟市スケートボードパーク）          ボルダリング、スキムボード、SUP サップボード（たつの市新舞子海水浴場）          ダンススポーツブレイキン（たつの市、相生市、宍粟市 体育館）</p> <p>ダンススポーツブレイキンにおいては手軽に楽しめることや、異年齢交流に適していることから、スポーツに必要なリズム感養成も可能ですので各所において数回開催しました。</p> <p>西播磨を代表する海水浴場の新舞子海岸にて、夏休みを利用しボルダリング、スキムボード、SUP サップボード、ウィンドサーフィンの体験会、地域交流会を開催し、NEWスポーツと海水浴場の新舞子海岸を再認識してもらいました。</p> <p>●陸上用にアレンジしてスケートボード等競技と合同開催（コロナ禍の為）          11月3日に宍粟市のスケートボードパークにおいて、スケートボード、BMX自転車の体験会、地域交流会を開催しました。</p> <p>●新舞子での競技と合同開催（コロナ禍の為）          各競技の体験会の様子をビデオ撮影して体験会終了時には編集し、西播磨がオリンピックの新競技が盛んな町であるプロモーションビデオを制作します。西播磨地域にもこれらの競技のオリンピック候補選手もいますので、選手の思いや西播磨のNEWスポーツについてもインタビューしてビデオ制作し、インターネット配信して他地域へPRします。</p>

事業の効果	<p>2024年パリオリンピックで採用されましたが代表出場は今からでも間に合います。それくらい練習場所や道具等を必要としないスポーツ競技です。数年前には、ここ播州地域においてもブレイキンの世界チャンピオンがいました。また宍粟市にはスケートボードのオリンピック強化選手も在住しています。西播磨地域はNEWスポーツ（オリンピック新競技）の盛んな町として他地域に認知して頂けるようになるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* オリンピックの新競技の波及および競技の知識や理解</li> <li>* 道具を使わずにできる競技なので、少し基礎を覚えると子供達の遊びや新しいコミュニケーションツールになる。</li> <li>* 「ブレイキン」だけでなく、他のスポーツに必要な”スポーツリズム”が身につく</li> <li>* あらゆるスポーツを楽しくすることができる能力が身につく。 (スポ根⇒エンジョイスports)</li> <li>* NEWスポーツ（オリンピック新競技）を体験する事で体力や運動能力の向上にもつながる。</li> </ul>
-------	--

		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
事業経過	2021.7.31～	龍野体育館 揖保川体育館 競技場	ダンススポーツ ブレイキン 体験会 練習会	60名	4名
	2021.11.3	宍粟市 スケート ボードパーク	スケートボード BMX自転車 ボルダリング SUPヨガ スキムボード ダンススポーツ 体験会	9名	14名
	2021.12.12	龍野赤とんぼ 広場 北広場	BMX自転車 ランニングバイク 体験会	220名	6名
	2021.12.19	たつの市 赤とんぼホール	ダンススポーツブレイキン 発表会 交流会 ビデオ撮影（野外ロケ）	1200名	16名

今後の展望	<p>2021 東京オリンピックでNEWスポーツにおいて日本選手は世界でもトップランキングで、日本人メダリストが多数出ることと思います。また2024パリオリンピックに向けて各地で様々なイベントが開催されます。NEWスポーツ競技も代表選手の選出のため開催されます。その為の大会を西播磨でも開催できるようになる為や、代表選手を選出していく為にNEWスポーツ競技の普及、体験会、地域交流会、またあらゆるスポーツに不可欠なリズムトレーニングを続けていきたいと考えてます。</p>
-------	---



ブレイキン 2021. 7. 31~



BMX2021. 11. 3



スキムボード 2021. 11. 3



ボルダリング 2021. 11. 3



# 赤穂ペアトレ研究会

## あこうペアトレ SPORTS フェス

所在：赤穂市

代表：望月 博子

地域：西播磨全域

<p>目的</p>	<p>[地域の現状] 赤穂市をふくめた西播磨地域は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達障害・知的障害を抱えた子は地域のスポーツ団体に受け入れてもらいにくい現状がある。</li> <li>2. 特別支援学校を在籍中は部活をしていた人も卒業後は地元でスポーツ等余暇活動を楽しむ居場所がない。</li> <li>3. 上記の理由で、発達障害や知的障害のある人は市外や県外まで行っている。その手段のない人は諦めている。</li> </ol> <p>[地域の課題]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害のある人も受け入れることのできるスキルや知識を持った指導者、ボランティアなど人材が育っていない。</li> <li>2. 地域で行われているバリアフリースポーツの種目が少ない。(障害のある人も好きなスポーツをしたい)</li> <li>3. 発達障害や知的障害などハンディキャップを持った人の困り感を自分事として受け入れる地盤がない。</li> </ol> <p>[解決方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. バリアフリースポーツイベントを開催し地域のスポーツ団体の指導者にもボランティアとして企画運営にも参加してもらい、関わり方のスキル・知識を得てもらう。また、地域でスポーツのできる環境を共に考えてもらう。</li> <li>2. このスポーツフェスでガイダンスも行い、バリアフリースポーツの種目や実施の方法を当事者や保護者にも知識を持ってもらう。</li> <li>3. 障害当事者以外の人にもスポーツと一緒に楽しんでもらうことで地域の人にも互いに受け入れるきっかけを作る。</li> </ol>
<p>内容</p>	<p>参加者 大人 42 人 子ども 16 人 合計 58 人 (うち、学生ボランティア参加が 21 人) 参加費は親子参加のみ (500 円×10 組=5000 円)</p> <p>内容 ① 風船バレー ② 関西福祉大学学生ゆるスポーツブース</p> <p>II 事前ボランティアスタッフミーティング 内容 講義「姫路スペシャルオリンピックスの取り組み」 講師 竹中正彦氏 ZOOM (オンライン) 開催</p> <p>ボランティアスタッフ向け。竹中氏には姫路スペシャルオリンピックスの取り組みやゆるスポーツについての講義をしてもらった。 関西福祉大学の学生ボランティアに、ゆるスポーツブースの運営を提案。輪投げや的当てなど、既存のゲームのルールを柔軟に変える、道具を持ちやすくするなどの工夫が見られた。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>ボランティアスタッフミーティングを開催してその中で講義やディスカッションを行うことで、ルールや工夫次第で“みんな同じ”ではなくても“みんな一緒に”楽しめることを知ってもらう機会になった。 また、障害を抱えて地域で生活する当事者や保護者の気持ちやニーズを共有することができた。</p>

	<p>催当日は、参加者、ボランティアスタッフ全員で設営から片付けまで実施。地域での居場所は皆でつくりあげるものだという意識が育った。 親子で参加した保護者からは、「我が子の障害を意識しないイベントだった」という感想があった。</p>				
事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	4/25	オンライン	スタッフ会議	5	5
	5/7	関西福祉大学	事業説明と協力依頼	3	2
	5/8	オンライン	スタッフ会議	6	6
	7/12	まちづくり会館	スタッフ会議	6	4
	7/25	オンライン	スタッフ会議	6	6
	9/13	オンライン	スタッフ会議	6	6
	9/27	オンライン	スタッフミーティング	27	6
	10/12	関西福祉大学	事業説明	16	1
	10/17	オンライン	スタッフ会議	6	6
	10/19	オンライン	スタッフミーティング	25	6
	11/3	まちづくり会館	スタッフ会議・音響打ち合わせ	4	3
	11/6	赤穂地区会館 体育館	「あこうペアトレ SPORTS フェス」開催当日	58	6
11/8	総合福祉会館	スタッフ会議	5	5	
11/30	総合福祉会館	スタッフ会議	4	4	

2021.11.6 スタッフ打ち合わせ



2021.11.6 風船バレー



2021.11.6 大学生ゆるスポーツブース



2021.11.6 風船バレー②



協働の相手方	関西福祉大学 高田豊司ゼミ ボランティアセンター
今後の展望	大学や地域のスポーツクラブと連動して、定期的に障害児(者)を受け入れてのゆるスポーツイベントを開催する。その運営は当事者、保護者、地域で行い、赤穂ペアトレ研究会はその活動をサポートする。

# 東有年歴史探訪の会

## 「有年山城」もあるよ！

所在：赤穂市東有年

代表：寺内 正

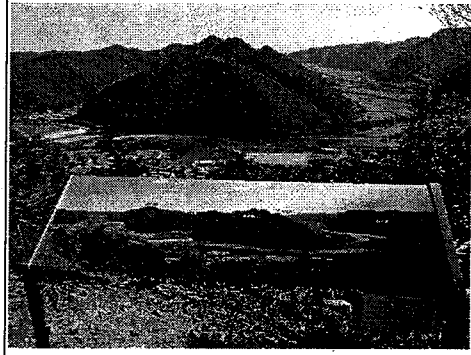
地域：赤穂市内

目的	当地域は少子高齢化が進み停滞感がある、一方で山城等の歴史遺産が存在する。この歴史遺産＝有年山城を整備し、地域内外からの人流を作り、地域の活性化を図る。				
内容	① 「有年山城跡」看板を作成し設置した。 ② 本丸南側に眼下景色のパノラマを設置した。 ③ 「有年山城」の幟を作成し登山道入口、登山道等に設置した。 ④ 「有年山城」名刺型御城印を作成し本丸に置いた。 ⑤ 本丸へのルートマップを印刷し、公共機関に配布した。 ⑥ 「有年山城」写真展を開催した。				
事業の効果	「有年山城跡」看板設置後において私達の活動内容が新聞に掲載され地域内外へ「有年山城もあるよ！」とアピールでき「有年山城」を世間に広報することができた。本丸ツアー跡に置いてある登城記録ノートには市内外からの登城者名が記載されています。又、神姫観光によるモニターツアーが実施され神戸方面からの参加者もおられました。そして市内2か所において写真展を開催し、地元においても「有年山城跡」の存在を周知することができ、地域活性化の一役を担ったと感じています。				
事業経過		場 所	内 容	参加者数	スタッフ数
	3年8月	本丸 本丸 登山道入口等	パノラマ設置 名刺型御城印設置 幟設置	2	7
	3年10月	大鷹山山麓	「有年山城跡」看板設置	2	7
	10月8～ 10月29	有年公民館	写真展開催	150	7
	11月15 ～11月19	赤穂市役所	写真展開催		

10月 看板設置



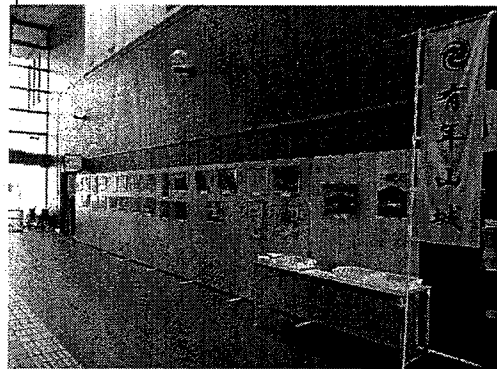
8月 パノラマ設置



8月 幟設置



10月 写真展開催



協働の相手方	
今後の展望	<p>今年度の事業執行により「有年山城もあるよ！」とした目的の大半を達成することが出来ました。</p> <p>今後においては、登城者への案内板等できめ細かな心配りの出来た維持管理が必要と考えます。</p> <p>又、せっきくの歴史遺産も見えないのでは無いに等しいので伐採が厳しい中、いかに見える化するかの検討とサクラ等植樹により新しい名勝として存在を示すことです。</p>

# 佐用山城ガイド協会

## 佐用山城ガイドスキルアップ事業

所在：佐用郡佐用町

代表：春名 政男

地域：兵庫県全域

目的	<p>〔地域の現状〕</p> <p>佐用町平福の「利神城」は国指定の史跡に認定され平福地域の関心も高くなり、登頂の希望者も多く、佐用町は利神城の崩壊防止のための工事に取り組んでいる。</p> <p>一方、西播磨地域では山城ブームで山城に関する関心が高くなり、県民局主催の山城のガイド研修等で佐用山城ガイド協会も発足し、活動を開始した。</p> <p>〔地域の課題〕</p> <p>以前からも「利神城跡」への登頂の希望は多くあったが崩壊等の危険があり、登頂は禁止されている。現在は保護と危険防止の工事を進めており、ガイド付き条件で登頂が可能となった。結成したばかりの「佐用山城ガイド協会」のガイド能力の向上とガイド体制の整備が不可欠。多くの愛好者に利神城の魅力を伝えるためにガイドのスキルアップとガイドを行う整備が求められている。</p> <p>〔解決方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ガイドのスキルアップは利神城の資料収集とスタッフの研修を継続して続けることで内容の充実を図る。</li><li>・ガイドを行うための整備として多くの方に明瞭な音声で聞いていただくための有線ヘッドマイクや、地域の宝である利神城跡の観光を広げる為、甲冑を揃えてそれを身に着けて記念写真として残したり、登山客を率いて、今から登頂して城攻めをする武将の演出にも使いたい。</li><li>・西播磨の山城ガイドの起爆剤となり、西播磨山城イレブンを山城ファンの方たちに全国に知名度を上げ、ツアー客に満足度を多く持ってもらいたい。</li></ul>
内容	<p>入山禁止となっていた利神城跡を登山出来るようにしたいとの思いで、利神城跡を守る為と登山できるようにするにはどうすれば良いかを佐用町教育委員会と佐用山城協会とで協議して来た。</p> <p>その結果、ガイド付きで人数を20名以下にして登山することの承認を得た。</p> <p>平成29年10月13日に利神城跡と山麓の御殿屋敷がセットで国の史跡指定となったが、石垣の崩落や登山道の整備、熊やイノシシ、スズメバチなどの危険性が有り、入山禁止の状況が長く続いていた。</p> <p>折角の日本でも有数の山城が、近くで見えない状態をガイドの説明で見得ないところまでも見る以上の満足度を上げるかに取り組んできた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・歴史、城主、戦国時代の説明や、近隣の城との係わり等の勉強会を月4回行って来た。</li><li>・10月利神城跡&amp;御殿屋敷で行ったガイド研修では、今まで立ち入ったことのない御殿屋敷の北畠までの見学（4名の地主に許可を頂く）</li><li>・1月24日佐用町議会議員7名を利神城跡へ案内と説明し、下山後は之からの活用方</li></ul>

法の検討会を行った。

- ・2月13日兵庫県の三大山城の見学と現地ガイドさんの説明を聞く。今後のガイドの勉強に役立てたい。一般参加者も同行した。
- ・利神城跡の現地研修会で何処でどのような説明をするか、危険個所の把握やツアー客の安全を守ることなどをガイド全員で取り組んできた。
- ・救急救命士講習会などにも出席し今のところガイドの6割が終了証を取得済み。ガイドは佐用町や岡山市、姫路市からも参加してくれている。
- ・あわじ観光協会紹介のガイド、白旗城、篠ノ丸城、上月城、龍野古城の山城ガイドの説明で研修置塩城の会長と情報交換した。

事業の効果

ツアー客に下山後アンケートを行い、結果として以下の評価を得られた。

- ・待ちに待った利神城跡や御殿屋敷が見れたとの満足感は強い。
- ・利神城跡の説明（歴史、代々の城主、城の構造、町並みの成り立）は高評価して頂いている
- ・くたびれたお客のリュックなどもガイドが持って、お客様の負担をなくしているのも感謝されている。
- ・利神城跡の朝焼けや、雲海に聳え立つ石垣群の写真も感動されている。

	場 所	内 容	参加者数	スタッフ数	
事業経過	2021年 5月～12 月までガ イド	利神城跡&御 殿屋敷	城の成り立、構造、歴史、町並み の説明等	各ツアー 20名か ら2名迄 色々	20名の時 3名から 5名附く
	2021年 10月	利神城跡&御 殿屋敷	ガイド研修	10名	スタッフ 全員
	2022年 1月24 日	利神城跡	佐用町議会議員を利神城跡へ案 内と説明。検討会	7名	2名
	2022年 2月13 日	淡路洲本城の 研修	兵庫県の三大山城の見学と現地 ガイドさんの説明を聞く。	3名	7名

相協  
手働  
方の

今後の展望

アンケート用紙に願望が多い天守までの登頂が出来るように佐用町教育委員会と協議中。  
三の丸までしか登れなかったが、天守までの安全ルートを案内ロープを張りこの場所に限って登ることを協議中。

甲冑セット



甲冑づくり 11月12日



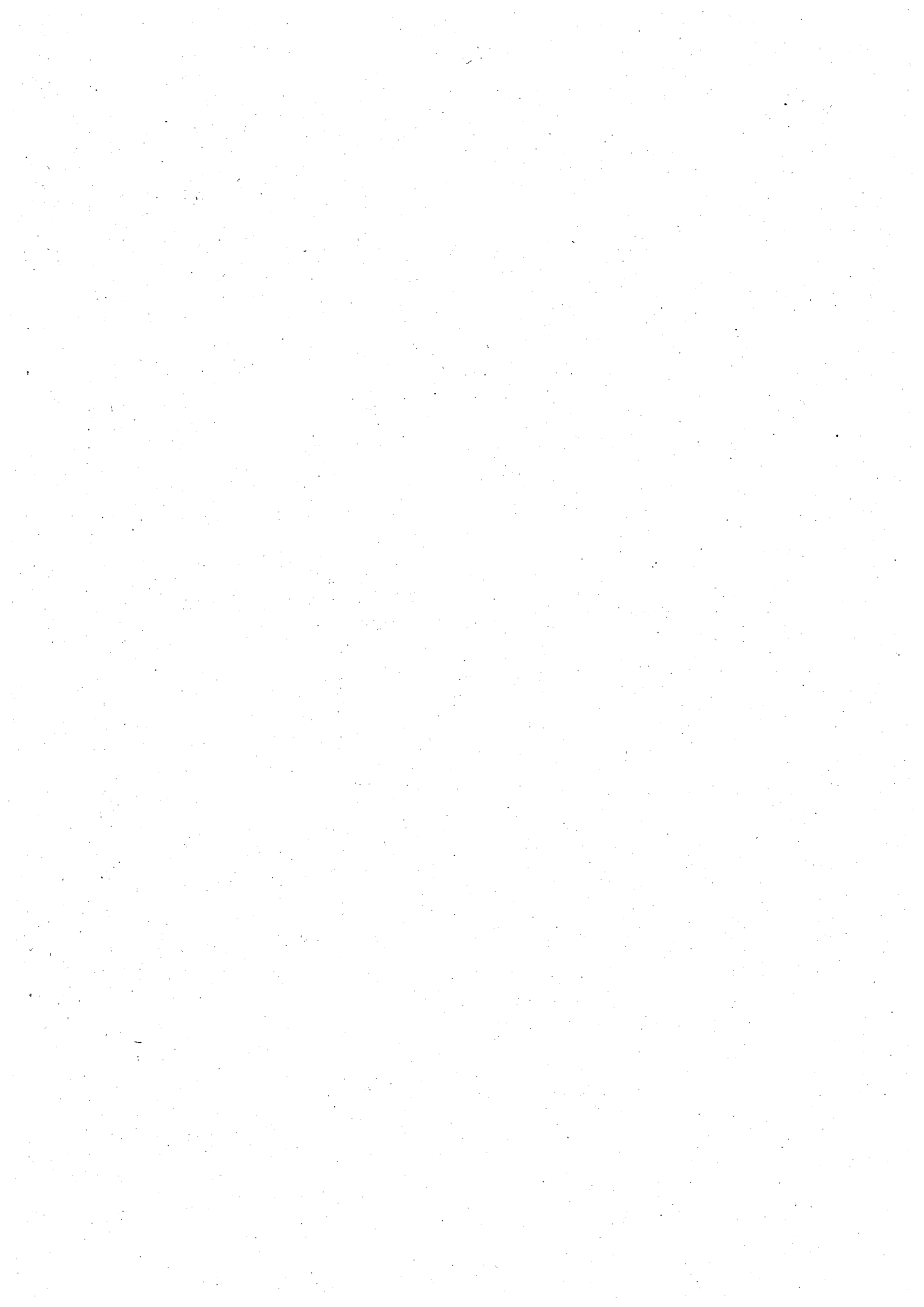
洲本研修 2月13日



洲本研修 2月13日







令和3年度地域づくり活動応援事業事例集

(令和4年2月現在)

発行 ころも豊かな美しい西播磨推進会議

兵庫県西播磨県民局

〒678-1205 赤穂郡上郡町光都 2-25

TEL:0791-58-2129/FAX:0791-58-0523